(様式第 10)

和医大経第 336 号
令和 3 年 10 月 5 日

厚生労働大臣

殿

開設者名

公立大学法人和歌山県立医科大学
理事長 宮下 和久

和歌山県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒641-8509 和歌山市紀三井寺811番地1
氏 名	公立大学法人和歌山県立医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

和歌山県立医科大学附属病院

3 所在の場所

〒641-8510 和歌山市紀三井寺811番地1	電話(073) 447 - 2300
--------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

☒ 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
☐ 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ (無)
内科と組み合わせた診療科名等	
1呼吸器内科 2消化器内科 3循環器内科 4腎臓内科	
5神経内科 6血液内科 7内分泌内科 8代謝内科	
9感染症内科 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11リウマチ科	
診療実績	
「呼吸器内科」の診療内容は呼吸器内科・腫瘍内科にて、「腎臓内科」の診療内容は腎臓内科（人工透析）にて、「神経内科」の診療内容は脳神経内科にて、「内分泌内科」「代謝内科」の診療内容は糖尿病・内分泌・代謝内科にて、感染症内科については呼吸器内科・腫瘍内科、アレルギー疾患については呼吸器内科・腫瘍内科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科等にて、「リウマチ科」の診療内容はリウマチ・膠原病科にて提供している。	

- (注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科 2消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 6心臓血管外科 7内分泌外科 8小児外科	
診療実績 「呼吸器外科」「乳腺外科」の診療内容は呼吸器外科・乳腺外科にて、「消化器外科」「内分泌外科」「小児外科」の診療内容は消化器・内分泌・小児外科にて提供している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 2小児科 3整形外科 4脳神経外科 5皮膚科 6泌尿器科 7産婦人科 8産科 9婦人科 10眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 15麻酔科 16救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制 通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1糖尿病・内分泌・代謝内科 2呼吸器内科・腫瘍内科 3脳神経内科 4リウマチ・膠原病科 5神経精神科 6形成外科 7耳鼻咽喉科・頭頸部外科 8リハビリテーション科 9病理診断科 10腎臓内科（人工透析） 11呼吸器外科・乳腺外科 12消化器・内分泌・小児外科 13産科・婦人科 14歯科口腔外科 15 16 17 18 19 20 21
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	床	床	床	760床	800床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	423人	112人	436.5人	看 護 補 助 者	42人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	9人	6人	9.5人	理 学 療 法 士	31人	臨床検査技師	57人
薬 剤 師	57人	1人	57.8人	作 業 療 法 士	9人	衛生検査技師	0人
保 健 師	3人	0人	3人	視 能 訓 練 士	5人	そ の 他	0人
助 産 師	39人	4人	41.5人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	747人	59人	789.1人	臨 床 工 学 士	22人	医療社会事業従事者	11人
准 看 護 師	0人	3人	2人	栄 養 士	0人	その他の技術員	31人
歯 科 衛 生 士	4人	0人	4人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	203人
管 理 栄 養 士	8人	2人	9.9人	診 療 放 射 線 技 師	44人	そ の 他 の 職 員	16人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	42人	眼 科 専 門 医	10人
外 科 専 門 医	37人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	9人
精 神 科 専 門 医	7人	放 射 線 科 専 門 医	17人
小 児 科 専 門 医	16人	脳 神 経 外 科 専 門 医	14人
皮 膚 科 専 門 医	6人	整 形 外 科 専 門 医	18人
泌 尿 器 科 専 門 医	8人	麻 酔 科 専 門 医	19人
産 婦 人 科 専 門 医	12人	救 急 科 専 門 医	12人
		合 計	227人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（病院長 中尾 直之 ） 任命年月日 令和 3年 4月 1日

平成29年から令和2年3月31日まで医療安全管理責任者（医療安全推進委員長）を務めた経験がある。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	627.1人	6.4人	633.5人
1日当たり平均外来患者数	926.1人	60.9人	987.0人
1日当たり平均調剤数	929.1 剤		
必要医師数	125人		
必要歯科医師数	5人		
必要薬剤師数	22人		
必要(准)看護師数	351人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	417m ²	鉄骨耐火構造	病床数	10床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 196.5m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	14床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 40m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	903m ²	鉄骨耐火構造	(主な設備) 臨床化学測定装置、免疫測定装置、糖分析装置、遺伝子解析システム、血液ガス分析装置、血球分析装置、血液凝固線溶測定装置、等			
細菌検査室	90m ²	鉄骨耐火構造	(主な設備) 細菌同定・感受性装置、血液培養検査装置、質量分析装置、抗酸菌培養検査システム、抗酸菌遺伝子解析システム、ドラフトチャンバー、ふ卵器、蒸気滅菌器、等			
病理検査室	191m ²	鉄骨耐火構造	(主な設備) 自動薄切装置・細胞診標本LBC作成装置			
病理解剖室	363m ²	鉄骨耐火構造	(主な設備) 解剖台・写真撮影装置			
研究室	15,846 m ²	鉄骨耐火構造	(主な設備) デジタル顕微鏡システム、蛍光顕微鏡システム、細胞イメージ解析装置、セルソーター等			
講義室	554m ²	鉄骨耐火構造	室数	2室	収容定員	260人
図書室	1,741m ²	鉄骨耐火構造	室数	9室	蔵書数	110,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	84.6%	逆紹介率	81.3%
算出根拠 A: 紹介患者の数			15,620人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			17,569人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			2,657人
D: 初診の患者の数			21,604人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山口 悦子	大阪市立大学	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・無	1
中川 利彦	パークアベニュー法律事務所		法律に関する識見を有するため	有・無	1
石井 浩子	NPO 法人いきいき和歌山がんサポート		医療を受ける者	有・無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	23
2	筋萎縮性側索硬化症	28	57	特発性拡張型心筋症	13
3	脊髄性筋萎縮症	5	58	肥大型心筋症	29
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	10	60	再生不良性貧血	21
6	パーキンソン病	344	61	自己免疫性溶血性貧血	7
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	62
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	4
10	シャルコー・マリー・トゥース病	4	65	原発性免疫不全症候群	1
11	重症筋無力症	53	66	IgA腎症	106
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	0
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	52	68	黄色靱帯骨化症	2
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	19	69	後縦靱帯骨化症	13
15	封入体筋炎	7	70	広範脊柱管狭窄症	9
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	0
17	多系統萎縮症	16	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	35	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	21
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	15	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	8
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	1	83	アジソン病	3
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	54
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	2
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	9
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	4
34	神経線維腫症	18	89	リンパ脈管腫症	2
35	天疱瘡	0	90	網膜色素変性症	1
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	4	92	特発性門脈圧亢進症	5
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	49
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	2	95	自己免疫性肝炎	46
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	89
42	結節性多発動脈炎	4	97	潰瘍性大腸炎	167
43	顕微鏡的多発血管炎	16	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	2	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	4	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	7	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャール病	9	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	205	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	49	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	41	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	25	107	全身型若年性特発性関節炎	2
53	シェーグレン症候群	88	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	10	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	7	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	15
113	筋ジストロフィー	2	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	20	167	マルファン症候群	6
118	脊髄髄膜瘤	8	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	1
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	1	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	1
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	3
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	4
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	9
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	1
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	4
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	1
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	3
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	1
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	8
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	12	208	修正大血管転位症	8
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	11
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	18

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	2	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	5	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	27	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	64	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	23	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	5	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	7	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	8	268	中條・西村症候群	1
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	4
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	3
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	3
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	3	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	3	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	7	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	5
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	6
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	2	294	先天性横隔膜ヘルニア	1
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	8
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	4
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	2
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	11

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β ーケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	2	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	2	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	1
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	2
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	1
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	0
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 後発医薬品使用体制加算3
・ 歯科外来診療環境体制加算2	・ 病棟薬剤業務実施加算1
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 病棟薬剤業務実施加算2
・ 特定機能病院入院基本料(一般病棟 7対1 入院基本料)	・ データ提出加算
・ 救急医療管理加算	・ 入退院支援加算(加算1、加算3、地域連携診療計画加算、入院時支援加算)
・ 超急性期脳卒中加算	・ 認知症ケア加算(加算1)
・ 診療録管理体制加算2	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 医師事務作業補助体制加算1(25対1)	・ 精神疾患診療体制加算
・ 急性期看護補助体制加算(50対1)	・ 精神科急性期医師配置加算 (2の口)
・ 看護職員夜間配置加算(16対1配置加算1)	・ 地域医療体制確保加算
・ 療養環境加算(一般)	・ 救命救急入院料1(注3 救急体制充実加算1、注4に掲げる加算、小児加算)
・ 療養環境加算(精神)	・ 救命救急入院料2(注3 救急体制充実加算1、注4に掲げる加算、小児加算)
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 特定集中治療室管理料2(小児加算)
・ 無菌治療室管理加算1	・ 総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料、新生児集中治療室管理料)
・ 緩和ケア診療加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 精神科応急入院施設管理加算	・ 小児入院医療管理料2(注2に規定する加算(プレイルーム加算))
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 精神科急性期治療病棟入院料1
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算、抗菌薬適正使用支援加算)	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 呼吸ケアチーム加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・ 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・ ウイルス疾患指導料	・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・ 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・ 糖尿病合併症管理料	・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・ がん患者指導管理料イ	・ 網膜再建術
・ がん患者指導管理料ロ	・ 人工中耳植込術
・ がん患者指導管理料ハ	・ 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ がん患者指導管理料ニ	・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・ 外来緩和ケア管理料	・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)
・ 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・ 乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・ 腎代替療法指導管理料	・ 内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・ 院内トリアージ実施料	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・ ニコチン依存症管理料	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・ がん治療連携計画策定料	・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)(一次一期、一次二期、二次再建)
・ ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術支援機器を用いる場合)
・ ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 薬剤管理指導料	・ 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 医療機器安全管理料1	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

<ul style="list-style-type: none"> 医療機器安全管理料2 	<ul style="list-style-type: none"> 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膈腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器安全管理料(歯科) 	<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡下筋層切開術
<ul style="list-style-type: none"> 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2(緩和ケア) 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
<ul style="list-style-type: none"> 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算 	<ul style="list-style-type: none"> 胸腔鏡下弁形成術
<ul style="list-style-type: none"> 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料 	<ul style="list-style-type: none"> 経カテーテル大動脈弁置換術
<ul style="list-style-type: none"> 在宅経肛門的自己洗腸指導管理料 	<ul style="list-style-type: none"> 胸腔鏡下弁置換術
<ul style="list-style-type: none"> 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定 	<ul style="list-style-type: none"> ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
<ul style="list-style-type: none"> 遺伝学的検査 	<ul style="list-style-type: none"> ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
<ul style="list-style-type: none"> 精密触覚機能検査 	<ul style="list-style-type: none"> 両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
<ul style="list-style-type: none"> 骨髄微小残存病変量測定 	<ul style="list-style-type: none"> 両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
<ul style="list-style-type: none"> BRCA1/2遺伝子検査 	<ul style="list-style-type: none"> 植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
<ul style="list-style-type: none"> がんゲノムプロファイリング検査 	<ul style="list-style-type: none"> 植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
<ul style="list-style-type: none"> 先天性代謝異常症検査 	<ul style="list-style-type: none"> 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
<ul style="list-style-type: none"> HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) 	<ul style="list-style-type: none"> 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
<ul style="list-style-type: none"> 検体検査管理加算(I) 	<ul style="list-style-type: none"> 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
<ul style="list-style-type: none"> 検体検査管理加算(IV) 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
<ul style="list-style-type: none"> 国際標準検査管理加算 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> 遺伝カウンセリング加算 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> 遺伝性腫瘍カウンセリング加算 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
<ul style="list-style-type: none"> 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> 胎児心エコー法 	<ul style="list-style-type: none"> バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
<ul style="list-style-type: none"> 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト 	<ul style="list-style-type: none"> 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
<ul style="list-style-type: none"> ヘッドアップティルト試験 	<ul style="list-style-type: none"> 体外衝撃波胆石破碎術
<ul style="list-style-type: none"> 人工膵臓検査、人工膵臓療法 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下肝切除術
<ul style="list-style-type: none"> 長期継続頭蓋内脳波検査 	<ul style="list-style-type: none"> 体外衝撃波膵石破碎術

・ 単線維筋電図	・ 腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
・ 神経学的検査	・ 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・ 補聴器適合検査	・ 腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
・ 内服・点滴誘発試験	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 画像診断管理加算1	・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ CT撮影及びMRI撮影(CT)	・ 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・ CT撮影及びMRI撮影(MRI)	・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 冠動脈CT撮影加算	・ 腹腔鏡下腎盂形成術(内視鏡手術支援機器を用いる場合)
・ 心臓MRI撮影加算	・ 同種死体腎移植術
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 生体腎移植術
・ 外来化学療法加算1	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 連携充実加算	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ 無菌製剤処理料	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術支援機器を用いる場合)
・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・ がん患者リハビリテーション料	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則19に規定する手術 ・ (遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術に限る。)
・ リンパ浮腫複合的治療料	・ 輸血管管理料Ⅰ
・ 集団コミュニケーション療法料	・ コーディネート体制充実加算
・ 歯科口腔リハビリテーション料2	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ 経頭蓋磁気刺激療法	・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ 認知療法・認知行動療法1	・ 歯周組織再生誘導手術
・ 精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ 精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・ 歯根端切除手術の注3
・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ 麻酔管理料(Ⅰ)
・ 医療保護入院等診療料	・ 麻酔管理料(Ⅱ)
・ 静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・ 放射線治療専任加算
・ 硬膜外自家血注入	・ 外来放射線治療加算
・ エタノールの局所注入(甲状腺)	・ 高エネルギー放射線治療

<ul style="list-style-type: none"> ・ エタノールの局所注入(副甲状腺) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回線量増加加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人工腎臓 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強度変調放射線治療(IMRT)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入期加算2及び腎代替療法実績加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画像誘導放射線治療(IGRT)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体外照射呼吸性移動対策加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手術用顕微鏡加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定位放射線治療
<ul style="list-style-type: none"> ・ CAD/CAM冠 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保険医療機関間の連携による病理診断
<ul style="list-style-type: none"> ・ センチネルリンパ節加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)(1次再建、2次再建) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病理診断管理加算2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 悪性腫瘍病理組織標本加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 椎間板内酵素注入療法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラウン・ブリッジ維持管理料
<ul style="list-style-type: none"> ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科矯正診断料
<ul style="list-style-type: none"> ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				種別	名称
若年発症糖尿病濃厚家系の原因遺伝子探索と診療への応用	古田 浩人	内科学第一講座	1,430,000	補助委	日本学術振興会
免疫調節におけるトリプトファン感知受容体GPR142の役割の検討	岩倉 浩	内科学第一講座	1,300,000	補助委	日本学術振興会
肥満・糖尿病におけるIRE1 α に着目したUPR制御機構解明と新規治療戦略	森田 修平	内科学第一講座	1,300,000	補助委	日本学術振興会
内分泌機能異常を伴うIgG4関連疾患における小胞体ストレスの役割と治療法の検討	竹島 健	内科学第一講座	1,300,000	補助委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤治療における超早期HLA拘束性内分泌バイオマーカー	栗本 千晶	内科学第一講座	1,300,000	補助委	日本学術振興会
膵 β 細胞特異的Cox6a2発現抑制による糖尿病発症機序の解明	浦木 進丞	内科学第一講座	1,690,000	補助委	日本学術振興会
膵 β 細胞における転写因子BHLHA15/小胞体膜蛋白CCPG1のUPR制御機構	岸本 祥平	内科学第一講座	1,300,000	補助委	日本学術振興会
膵癌生検組織を用いた次世代診断技術開発:人工知能病理診断と包括的1細胞遺伝子解析	北野 雅之	内科学第二講座	1,560,000	補助委	日本学術振興会
新規超音波造影剤と高密度焦点式超音波(HIFU)を用いた低侵襲治療システムの開発	蘆田 玲子	内科学第二講座	1,560,000	補助委	日本学術振興会
化学療法とPD-1/L1阻害剤併用における相乗機序の解明と新規治療標的の探索	小澤 雄一	内科学第三講座	1,300,000	補助委	日本学術振興会
AXLを標的とした肺がん個別化医療実現に向けた基盤研究	山本 信之	内科学第三講座	1,560,000	補助委	日本学術振興会
非線形超音波法を用いた心筋浮腫の診断	竹本 和司	内科学第四講座	1,560,000	補助委	日本学術振興会
冠動脈の心筋血流予備量比と壁応力を測定できる超高速血管内光干渉断層法の開発	久保 隆史	内科学第四講座	1,430,000	補助委	日本学術振興会
フラクタルカイン受容体に着目した腹部大動脈瘤発生機序の解明	柏木 学	内科学第四講座	1,430,000	補助委	日本学術振興会
AIを活用した3D心臓超音波動画からの心筋運動自動解析法の研究	穂積 健之	内科学第四講座	260,000	補助委	日本学術振興会
剖検用光干渉断層法開発によるoptic autopsyの構築	田中 篤	内科学第四講座	1,950,000	補助委	日本学術振興会

小計16件

多面的アプローチによる石灰化結節における冠動脈イベント発症機序の解明	寺田 幸誠	内科学第四講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
安静時冠循環生理学指標への血行動態変化の影響に関する研究	塩野 泰紹	内科学第四講座	130,000	補委	日本学術振興会
生体内コレステロール結晶の三次元構造解析によるプラーク破裂発症機序の解明	片山 陽介	内科学第四講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
経カテーテル大動脈弁留置術における血栓発症機序の解明	和田 輝明	内科学第四講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
地域卒当事者の視点で捉えた医学部入学選抜の弊害と必要な支援を明らかとする調査研究	山野 貴司	内科学第四講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
冠動脈石灰化病変の高壁ずり応力を反映する新しい狭窄診断法の検討	江守 裕紀	内科学第四講座	2,340,000	補委	日本学術振興会
マイクロニードル技術を利用した局所薬物送達療法による新しい褥瘡治療法の構築	横山 真央	内科学第四講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
うつ病へのrTMS治療の機序を解明し効果予測指標を確立する包括的神経生理学的研究	高橋 隼	神経精神医学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
神経炎症・酸化ストレスに着目し電気けいれん療法の再発予測因子を探索する前向き研究	奥平 和也	神経精神医学講座	390,000	補委	日本学術振興会
アセチルコリン/GABA機能に着目した老年期うつ病へのrTMS治療の有効性の検討	喜多 彬	神経精神医学講座	390,000	補委	日本学術振興会
網羅的micro-RNA解析による川崎病遠隔期冠動脈病変リモデリング機序の解明	垣本 信幸	小児科学講座	910,000	補委	日本学術振興会
未熟児におけるヨウ素摂取量の検討	土橋 智弥	小児科学講座	780,000	補委	日本学術振興会
シクロスポリン腎毒性を非侵襲的に評価するバイオマーカープロファイリングの構築	田中 侑	小児科学講座	910,000	補委	日本学術振興会
計算処理に関する大脳皮質活動のダイナミズムの解明	中井 康雄	脳神経外科学講座	390,000	補委	日本学術振興会
悪性髄膜腫におけるエピジェネティック異常をターゲットとする新規治療法の確立	佐々木 貴浩	脳神経外科学講座	1,820,000	補委	日本学術振興会
マイクロニードルを利用した心臓血管用止血シートの開発	本田 賢太郎	外科学第一講座	260,000	補委	日本学術振興会
膀胱癌に対する免疫抑制機構克服を目指した2方向性テラーメード免疫療法の開発	山上 裕機	外科学第二講座	14,690,000	補委	日本学術振興会
樹状細胞サブセットの選択的貪食による革新的XCL1産生腫瘍細胞ワクチンの開発	勝田 将裕	外科学第二講座	1,300,000	補委	日本学術振興会

小計18件

癌微小環境内のエクソソーム情報の変化に基づいた薬剤耐性機序の解明と耐性解除の探索	上野 昌樹	外科学第二講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
Neoantigenを標的としたテラーメードiPS-DCがんワクチン療法の開発	尾島 敏康	外科学第二講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
XCR1陽性樹状細胞への選択的送達によるユビキチン融合がんワクチンの新戦略	宮澤 基樹	外科学第二講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
腫瘍周囲の免疫環境に着目した新規個別化免疫療法の開発	松田 健司	外科学第二講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
運動療法ストレスと薬物輸送体発現振動制御による新規シンクロナイズド化学療法の開発	岡田 健一	外科学第二講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
革新的腫瘍細胞ワクチンを核とした複合免疫療法の開発	宮本 篤	外科学第二講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
網羅的ctDNA変異解析モニタリングによる膀胱個別化集学的治療の開発	廣野 誠子	外科学第二講座	2,080,000	補委	日本学術振興会
IL-17とがん幹細胞ニッチをターゲットにした新規分子標的療法の開発	早田 啓治	外科学第二講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
XCR1陽性樹状細胞による革新的新規がんワクチン療法	水本 有紀	外科学第二講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
Neoantigenを標的とした個別化iPSDCs癌ワクチン療法の基礎研究	北谷 純也	外科学第二講座	780,000	補委	日本学術振興会
膀胱患者における口腔内細菌叢の網羅的検索による新たな診断方法・予後解析の確立	北畑 裕司	外科学第二講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
患者由来ネオアンチゲンを標的とした個別化iPSDCs癌ワクチン療法の基礎研究	岩本 博光	外科学第二講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
地域住民コホート研究による脊柱後弯症の自然経過の解明	高見 正成	整形外科科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
子どもロコモの実態調査と効果的な介入方法の調査	木戸 勇介	整形外科科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
変性椎間板マウスモデルにおける脊索細胞注入の髄核修復効果	村上 公英	整形外科科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
ウィズ・コロナ時代に骨の健康を維持するためのステイ・ホームプログラムの開発	神埜 聖治	整形外科科学講座	1,950,000	補委	日本学術振興会
脊柱靭帯骨化疾患 ～ゲノム解析による疾患概念の確立～	長田 圭司	整形外科科学講座	650,000	補委	日本学術振興会
特発性大腿骨頭壊死症に対するMuse細胞を用いた革新的治療法の開発	山田 宏	整形外科科学講座	2,470,000	補委	日本学術振興会

小計18件

成人脊柱変形術後の股関節症:新疾患概念の確立に向けて	神前 拓平	整形外科科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
早期・初期変形性膝関節症ラットモデル確立	福井 大輔	整形外科科学講座	910,000	補委	日本学術振興会
皮膚創傷治癒におけるTRPA1カチオンチャンネルと一酸化窒素の役割と相互作用	村田 鎮優	整形外科科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
前帯状皮質におけるケタミン及びケタミン代謝物の疼痛抑制メカニズムの解明	山中 学	整形外科科学講座	520,000	補委	日本学術振興会
大規模一般住民コホートによるキーンベック病の疫学調査-ROAD study-	下江 隆司	整形外科科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
異常感覚克服のための各種触覚機械受容器イオンチャンネルの同定	曾根勝 真弓	整形外科科学講座	3,120,000	補委	日本学術振興会
成人脊椎変形矯正固定術後の人工股関節脱臼リスク評価	西山 大介	整形外科科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
新規遺伝性インターフェロン制御異常症の同定と解析	国本 佳代	皮膚科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
Psm8変異導入中條-西村症候群モデルマウスの解析	稲葉 豊	皮膚科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
悪性黒色腫特異的融合遺伝子の同定および機能解析	山本 有紀	皮膚科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
強皮症・皮膚線維化疾患における特異的・機能的piRNAの研究	神人 正寿	皮膚科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
腫瘍随伴マクロファージを標的とした腎癌に対する新たな治療戦略の開発	原 勲	泌尿器科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
尿路結石形成の分子機構におけるオンコスタチンMの役割の解明とその治療への応用	山下 真平	泌尿器科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
テネイシンX-TRPチャンネル系を標的とした神経麻痺性角膜症の新規治療戦略の確立	住岡 孝吉	眼科学講座	910,000	補委	日本学術振興会
神経膜性角膜症の重症例での角膜実質融解機序の解明に基づいた治療戦略の樹立	岡田 由香	眼科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
角膜上皮治癒後の実質構造の再構築過程でのムチンの機能解析に基づいた新規治療戦略	白井 久美	眼科学講座	910,000	補委	日本学術振興会
ヘッジホッグ/ネトリンによる上皮-神経相互作用の解明と神経麻痺性角膜症の治療戦略	雑賀 司珠也	眼科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
TRPチャンネルに着目したPG製剤角膜上皮障害の治療戦略	高田 幸尚	眼科学講座	520,000	補委	日本学術振興会

小計18件

三叉神経再生を視野に入れた神経麻痺性角膜炎の新規治療戦略	田中 才一	眼科学講座	520,000	補委	日本学術振興会
スフィンゴシン1リン酸受容体3を標的とした角膜の血管新生と癒着の抑制戦略の樹立	安田 慎吾	眼科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
細胞膜TRPイオンチャネルを標的とした菌体成分による角膜実質炎症の抑制戦略の樹立	山口 雄大	眼科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
稀少細胞間接着分子の眼表面悪性腫瘍での発現様式と機能解析に基づいた新規診断の樹立	小門 正英	眼科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
補体による創傷治癒制御機構の解明に基づいた角膜化学外傷の新規初期治療戦略の提唱	安武 正治郎	眼科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
細胞膜TRPA1イオンチャネル発現解析に基づいた脈絡膜血管新生の新規治療戦略	臼井 佑太	眼科学講座	910,000	補委	日本学術振興会
角膜実質創傷治癒での細胞外基質蛋白質ルミカンの機能解析に基づいた新規治療戦略	鈴木 映美	眼科学講座	910,000	補委	日本学術振興会
スフィンゴシン・1・リン酸3シグナルの脈絡膜新生血管と線維化における役割の解明	岩西 宏樹	眼科学講座	780,000	補委	日本学術振興会
肺炎球菌感染症の重症化に関わる免疫と感覚神経の相互作用の解明	杉田 玄	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座	910,000	補委	日本学術振興会
難治性中耳炎における抗体の量的・質的評価と免疫グロブリン療法適応基準の作成	武田 早織	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座	1,235,000	補委	日本学術振興会
侵襲性肺炎球菌感染症におけるタイト結合とボトルネック効果の解明による新規治療戦略	河野 正充	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
甲状腺未分化癌に対するLAT1とGlut1の二重阻害による分子標的治療の有用性	榎本 圭佑	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
VEGFR阻害による甲状腺未分化癌の再分化誘導治療の開発	熊代 奈央子	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
NLE(NBCA、Lipiodol、Ethanol)を用いたブタ門脈塞栓研究	上裕 敦文	放射線医学講座	260,000	補委	日本学術振興会
血中腫瘍細胞由来DNAを用いた網羅的遺伝子解析に基づく卵巣癌の新規治療戦略の確立	井篁 一彦	産科・婦人科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
胎盤形成不全における小胞体シャペロン・カルネキシンの発現と病態意義の解明	松川 仁登美	産科・婦人科学講座	1,820,000	補委	日本学術振興会
子宮頸癌FFPE組織を用いた16s rRNAマイクロバイーム解析	小林 彩	産科・婦人科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
破骨細胞をターゲットとした骨がん痛メカニズムの解明:新規の骨がん痛治療法の開発	栗山 俊之	麻酔科学講座	520,000	補委	日本学術振興会

小計18件

神経線維をターゲットとした術後痛に対する新規治療法の開発	谷奥 匡	麻酔科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
新規痛み関連分子Tmem45bが関係する炎症性腸疾患の病態解明	荒谷 優一	麻酔科学講座	2,340,000	補委	日本学術振興会
新規分子を標的とした痒み治療薬の開発に向けた末梢神経における痒み伝達の解明	丸山 智之	麻酔科学講座	1,950,000	補委	日本学術振興会
がんの痛みと増殖における知覚神経の役割ーがん増殖を抑制しうる鎮痛薬開発に向けてー	江尻 加名子	麻酔科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
紀伊ALSのバイオマーカーと原因遺伝子同定を目的とした多施設共同レジストリー研究	伊東 秀文	脳神経内科学講座	4,030,000	補委	日本学術振興会
中條-西村症候群との比較による、封入体筋炎の病態機序の解析	森 めぐみ	脳神経内科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
マインドフルネス瞑想によるパーキンソン病の衝動性制御効果の実証	高 真守	脳神経内科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
肺癌術前化学療法施行患者の心身機能と術前PROリハビリテーションの効果	三上 幸夫	リハビリテーション医学講座	650,000	補委	日本学術振興会
運動療法を併用した全身温熱の開発に関する研究	幸田 剣	リハビリテーション医学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
骨髄異形成症候群の造血障害・遺伝子変異細胞クローン性拡大とNKG2D免疫との関連	園木 孝志	血液内科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
免疫不全を基盤として発症する炎症性腸疾患の病態解明	田村 志宣	血液内科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
移植後後期腹水症の発症機序の解明および新規診断バイオマーカー開発	蒸野 寿紀	血液内科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
CCDC22変異がもたらす免疫応答の変化とEBV-HLH発症・重症化との関連	山下 友佑	血液内科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
microRNAとスーパーエンハンサーに着目した悪性リンパ腫のPVT1の役割解明	細井 裕樹	血液内科学講座	1,950,000	補委	日本学術振興会
災害や外傷に伴う急性腎障害(AKI)の機能予後と治療に関わる分子マーカーの開発	那須 亨	救急・集中治療医学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
MRI自動読影装置を用いた腰部脊柱管狭窄症の自然経過とその予後予測因子の解明	石元 優々	救急・集中治療医学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
細胞異型形成の分子学的機序からみた尿路上皮癌前駆病変の病理学的特徴と遺伝子異常	村田 晋一	人体病理学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
細胞診検体から遺伝子点変異を視覚化し、細胞異型が生じるメカニズムを解明する	松崎 生笛	人体病理学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会

小計18件

リンパ浮腫発症における補体の役割とその分子機構	朝村 真一	形成外科学講座	910,000	補委	日本学術振興会
筋肉内静脈奇形モデルを用いた新規治療法の開発	和田 仁孝	形成外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
難治性リンパ浮腫の発症におけるTRPチャネルの関与とその分子機構	上野 一樹	形成外科学講座	650,000	補委	日本学術振興会
関節リウマチの生物学的製剤治療により活性化される抗核抗体の研究	藤井 隆夫	リウマチ・膠原病科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
単一遺伝子異常による若年発症糖尿病の原因遺伝子解明	古田 浩人	内科学第一講座	900,000	補委	公益財団法人 日本糖尿病財団
障がい者目線から見た健常者の倫理観についての研究	青木 秀哲	リハビリテーション科	400,000	補委	公益財団法人 生存科学研究会
人工知能を用いた映像分析による在宅輸血の安全性向上に関する研究	西川 彰則	医療情報部	500,000	補委	一般社団法人日本輸血・細胞治療学会
悪性リンパ腫におけるmicroRNAとsuper-enhancerに着目したPVT1の役割解明	細井 裕樹	血液内科	2,000,000	補委	公益財団法人 武田科学振興財団
肥満・糖尿病におけるIRE1 α に着目したUPR制御機構解明と新規治療戦略	森田 修平	内科学第一講座	2,000,000	補委	公益財団法人 武田科学振興財団
骨髄異形成症候群の病態形成におけるNKG2D免疫の解明	村田 祥吾	血液内科	300,000	補委	一般社団法人日本血液学会
環状RNAによるエリテマトーデスの皮疹形成のメカニズムの解明	稲葉 豊	皮膚科	2,000,000	補委	グラクソ・スミスクライン株式会社 GSKジャパン研究助成事務局
p53アミロイドーシスとしてのp53変異癌の病態メカニズムの解明	岩橋 尚幸	産科・婦人科科学講座	1,000,000	補委	公益財団法人安田記念医学財団
CAPP-Seqを用いたcirculating cell-free tumor DNA変異解析のモニタリングによる腫瘍個別化治療の開発	廣野 誠子	外科学第二講座	2,000,000	補委	公益財団法人安田記念医学財団
p53アミロイド形成に着目したp53変異卵巣癌の新しい病態機構の解明	岩橋 尚幸	産科・婦人科科学講座	1,500,000	補委	一般社団法人 今井精一記念財団
細胞間接着分子の眼表面悪性腫瘍での発現様式と機能解析に基づいた新規診断の樹立	小門 正英	眼科学講座	2,000,000	補委	エイエムオー・ジャパン株式会社
スフィンゴシン1リン酸受容体3を標的にした角膜癒着の抑制戦略の樹立	安田 慎吾	眼科学講座	2,000,000	補委	エイエムオー・ジャパン株式会社
TRPM2ノックアウトマウスにおけるレーザー誘発脈絡膜新生血管の検討	西 晃佑	眼科学講座	2,000,000	補委	エイエムオー・ジャパン株式会社
角膜創傷治癒における角膜実質のヒアルロン酸合成酵素の関与と機序の解明	松下 愛	眼科学講座	2,000,000	補委	エイエムオー・ジャパン株式会社

小計18件

細胞膜TRPイオンチャネルを標的にした菌体成分による角膜実質炎症の抑制戦略の樹立	山口 雄大	眼科学講座	2,000,000	補委	エイエムオー・ジャパン株式会社
p53アミロイド形成に着目した卵巣癌の新しい病態機構の解明	岩橋 尚幸	産科・婦人科科学講座	2,000,000	補委	公益財団法人 神澤医学研究振興財団
新たな痛み治療薬の開発に向けた新規痛み関連分子Tmem45bの解析	谷奥 匡	麻酔科学講座	1,500,000	補委	公益財団法人 中富健康科学振興財団
睥がん重粒子線治療研究会	北野 雅之	内科学第二講座	200,000	補委	公益財団法人 大阪国際がん治療財団
The relationship of sagittal alignment of the spine with low back pain and physical performance in a population-based cohort of the Japanese: The Wakayama Spine Study	平 一裕	救急・集中治療医学講座	500,000	補委	公益財団法人 整形災害外科学研究助成財団
要介護者に対する疾患別リハビリテーションから維持期・生活期リハビリテーションの一貫したリハビリテーション手法の確率研究	三上 幸夫	リハビリテーション医学講座	7,800,000	補委	厚生労働省

小計6件
計 130件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ishibashi T, Morita S, Kishimoto S, et al.	内科学第1講座	nAChR signaling regulates IRE1 α activation to protect β -cells against terminal unfolded protein response under irremediable ER stress.	Journal of diabetes investigation 2020 Jul. ; 11(4)801-813	Original Article
2	Morita S, Inai Y, Minakata S, et al.	内科学第1講座	Quantification of serum C- mannosyl tryptophan by novel assay to evaluate renal function and vascular complications in patients with type 2 diabetes.	Scientific reports 2021 Jan.21 (オンライン)	Original Article
3	Itonaga M, Kitano M, Kojima F, et al.	内科学第2講座	The usefulness of EUS-FNA with contrast-enhanced harmonic imaging of solid pancreatic lesions: A prospective study.	Journal of gastroenterology and hepatology 2020 Dec. ; 35(12)2273-2280	Original Article
4	Tamura T, Yamashita Y, Kawaji Y, et al.	内科学第2講座	Endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration with contrast-enhanced harmonic imaging for diagnosis of gallbladder tumor (with video).	Journal of hepato-biliary- pancreatic sciences 2021 Jan. ; 28(1)e1-e3	Original Article
5	Ida Y, Tamai H, Shingaki N, et al.	内科学第2講座	Prognostic value of 18 F- fluorodeoxyglucose positron emission tomography in patients with small hepatocellular carcinoma treated by radiofrequency ablation.	Cancer imaging 2020 Oct.19 ; 20(1)74	Original Article
6	Itonaga M, Ashida R, Kitano M, et al.	内科学第2講座	Endoscopic Ultrasound- Guided Fine-Needle Aspiration (EUS-FNA) with Image Enhancement.	Diagnostics 2020 Oct.30; 10(11)E888	Review
7	Itonaga M, Kitano M, Yoshikawa T,et al.	内科学第2講座	Comparison of endoscopic ultrasound-guided choledochoduodenostomy and endoscopic retrograde cholangiopancreatography in first-line biliary drainage for malignant distal bile duct obstruction: A multicenter randomized controlled trial.	Medicine 2021 Mar.26 ; 100(12)e25268	Original Article
8	Yamashita Y, Tanioka K, Kawaji Y, et al.	内科学第2講座	Endoscopic Ultrasonography Shear Wave as a Predictive Factor of Endocrine/Exocrine Dysfunction in Chronic Pancreatitis.	Journal of gastroenterology and hepatology 2021 Feb. ; 36(2)391-396	Original Article

小計8件

9	Maeshima S, Ida Y, Shimizu R, et al.	内科学第2講座	Endoscopic ultrasound-guided radiofrequency ablation of porcine liver.	Journal of medical ultrasonics 2020 Jul. ; 47(3)435-443	Original Article
10	Tamura T, Ogura T, Takenaka M, et al.	内科学第2講座	Endoscopic sphincterotomy to prevent post-ERCP pancreatitis in patients with biliary neoplasms: a multicenter retrospective cohort study.	Endoscopy international open 2020 Apr. ; 8(4)E513-E522	Original Article
11	Tamura T, Kitano M, Kawai M, et al.	内科学第2講座	Contrast-enhanced harmonic endoscopic ultrasound-guided drainage of a postoperative pancreatic fistula.	Endoscopy 2020 May ; 52(5)E174-E175	Original Article
12	Shibaki R, Murakami S, Shinno Y, et al.	内科学第3講座	Predictive value of serum VEGF levels for elderly patients or for patients with poor performance status receiving anti-PD-1 antibody therapy for advanced non-small-cell lung cancer.	Cancer immunology immunotherapy 2020 Jul. ; 69(7)1229-1236	Original Article
13	Yamamoto N, Hayashi H, Planchard D, et al.	内科学第3講座	A randomized, phase 2 study of deoxyuridine triphosphatase Inhibitor, TAS-114, in Combination with S-1 versus S-1 alone in patients with advanced non-small-cell lung cancer.	Investigational new drugs 2020 Oct. ; 38(5)1558-1597	Original Article
14	Yamamoto N, Seto T, Nishio M, et al.	内科学第3講座	Erlotinib plus bevacizumab vs erlotinib monotherapy as first-line treatment for advanced EGFR mutation-positive non-squamous non-small-cell lung cancer: Survival follow-up results of the randomized JO25567 study.	Lung cancer 2021 Jan. ; 151:20-24	Original Article
15	Yamamoto N, Harada H, Okamoto I, et al.	内科学第3講座	Phase 2 Study of Nimotuzumab in Combination with Concurrent Chemoradiotherapy in Patients with Locally Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer	Clinical Lung Cancer 2021 Mar. ; 22(2) 134-141	Original Article
16	Akamatsu H, Ozawa Y, Oyanagi J, et al.	内科学第3講座	Phase Ib Study of Osimertinib plus Ramucirumab in Japanese Lung Cancer Patients With EGFR Mutation.	Anticancer Research 2021 Feb. ; 41(2)911-917	Original Article
17	Ozawa Y, Harutani Y, Oyanagi J, et al.	内科学第3講座	CD24, not CD47, negatively impacts upon response to PD-1/L1 inhibitors in non-small-cell lung cancer with PD-L1 tumor proportion score<50.	Cancer Science 2021 Jan. ; 112(1)72-80	Original Article

小計9件

18	Akamatsu H, Toi Y, Hayashi H, et al.	内科学第3講座	Efficacy of Osimertinib Plus Bevacizumab vs Osimertinib in Patients With EGFR T790M-Mutated Non-Small Cell Lung Cancer Previously Treated With Epidermal Growth Factor Receptor-Tyrosine Kinase Inhibitor: West Japan Oncology Group 8715L Phase 2 Randomized Clinical Trial.	JAMA Oncology 2021 Mar. ; 7(3)386-394	Original Article
19	Koh Y, Taniguchi H, Sugimoto N, et al.	内科学第3講座	Biomarker analysis in a randomized phase 2 study of panitumumab versus cetuximab in colorectal cancer (WJOG6510GTR).	Journal of Cancer Science and Clinical Therapeutics 2020 Oct. ; 4(4)538-549	Original Article
20	Shibaki R, Akamatsu H, Kato T, et al.	内科学第3講座	A phase II study of cisplatin plus vinorelbine combined with atezolizumab as adjuvant therapy for completely resected non-small-cell lung cancer with EGFR mutation (West Japan Oncology Group 11719L/ADJUST study).	Investigational New Drugs 2021 Jan. ; 13:1-5	Original Article
21	Matsuo Y, Shiono Y, Kashiyama K, et al.	内科学第4講座	Extent of the difference between microcatheter and pressure wire-derived fractional flow reserve and its relation to optical coherence tomography-derived parameters.	International journal of cardiology. Heart & vasculature 2020 Apr. 27 ; Volume27. 100500.	Original Article
22	Wada T, Shiono Y, Kubo T, et al.	内科学第4講座	Impact of instantaneous wave-free ratio on graft failure after coronary artery bypass graft surgery.	International journal of cardiology 2021 Feb.1 ; 324:23-29	Original Article
23	Emori H, Kubo T, Shiono Y, et al.	内科学第4講座	Comparison of optical flow ratio and fractional flow ratio in stent-treated arteries immediately after percutaneous coronary intervention.	Circulation Journal 2020 Nov.25 ; 84(12)2253-2258	Original Article
24	Tanaka A, Taruya A, Shibata K, et al.	内科学第4講座	Coronary artery lumen complexity as a new marker for refractory symptoms in patients with vasospastic angina.	Scientific reports 2021 Jan. 8 (オンライン)	Original Article
25	Katayama Y, Tanaka A, Taruya A, et al.	内科学第4講座	Increased plaque rupture forms peak incidence of acute myocardial infarction in winter.	International journal of cardiology 2020 Dec.1 ; 320:18-22	Original Article
26	Yokoyama M, Chihara N, Tanaka A, et al.	内科学第4講座	A biodegradable microneedle sheet for intracorporeal topical hemostasis.	Scientific reports 2020 Nov.2 (オンライン)	Original Article

小計9件

27	Takahata M, Ino Y, Kubo T, et al.	内科学第4講座	Prevalence, Features and Prognosis of Artery-to-artery Embolic ST-Elevation Myocardial Infarction; An Optical Coherence Tomography Study.	Journal of the American Heart Association 2020 Dec.15 ; 9(24)e017661	Original Article
28	Higashioka D, Shiono Y, Kubo T, et al.	内科学第4講座	The inter-study reproducibility of instantaneous wave-free ratio and angiography coregistration.	Journal of Cardiology 2020 May ; 75(5)507-512	Original Article
29	Shigematsu T, Fukagawa M, Yokoyama K, et al.	腎臓内科学講座	Influence of dialysate Ca concentrations on the therapeutic effects of etelcalcetide with concomitant drugs in patients with secondary hyperparathyroidism.	Nephrology 2020 Aug. ; 25(8)634-643	Original Article
30	Shigematsu T, Asada S, Endo Y, et al.	腎臓内科学講座	Efficacy and Safety of Evocalcet Evaluated by Dialysate Calcium Concentration in Patients with Secondary Hyperparathyroidism Undergoing Hemodialysis	International journal of nephrology and renovascular disease 2020 May ; 13:97-106	Original Article
31	Yamashita Y, Hori Y, Kosako H, et al.	血液内科学講座	Brentuximab vedotin for refractory anaplastic lymphoma kinase-negative anaplastic large cell lymphoma in leukemic phase with RUNX3 overexpression.	Hematology reports 2020 May 15 ; 12(1)8368	Case report
32	Hosoi H, Murata S, Mushino T, et al.	血液内科学講座	Eosinophilia during letermovir treatment after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Annals of hematology 2020 Oct. ; 99(10)2453-2454	Letter
33	Hosoi H, Niibori-Nambu A, Sek Suan Nah G, et al.	血液内科学講座	Super-enhancers for RUNX3 are required for cell proliferation in EBV-infected B cell lines.	Gene 2021 Mar.30 ; 774;145421	Original Article
34	Yamashita Y, Morita S, Hosoi H, et al.	血液内科学講座	Targeting Adaptive IRE1 α Signaling and PLK2 in Multiple Myeloma: Possible Anti-Tumor Mechanisms of KIRA8 and Nilotinib.	International journal of molecular sciences 2020 Sep. ; 21(17)6314	Original Article
35	Koh J, Kaneoke Y, Donishi T, et al.	脳神経内科学講座	Increased large-scale inter-network connectivity in relation to impulsivity in Parkinson's disease.	Scientific reports 2020 Jul. (オンライン)	Original Article
36	Tabata K, Jinnin M, Furukawa K, et al.	リウマチ・膠原病科学講座	Finger sweating levels evaluated by video capillaroscopy system are increased in patients with systemic sclerosis compared to pre-clinical stage patients.	Drug discoveries & therapeutics 2021 Jan.23 : 14(6)325-329	Original Article

小計10件

37	Shima Y, Nakanishi K, Hama T, et al.	小児科学講座	Crescentic IgA nephropathy in children.	Pediatric nephrology 2020 Jun. ; 35(6)1005-1014	Original Article
38	Nakanishi Y, Yuzaki M, Honda K, et al.	外科学第1講座	Staged hybrid aortic procedure for chronic type B aortic dissection in two patients with Marfan syndrome.	General thoracic and cardiovascular surgery 2020 Dec. ; 68(12)1472- 1474	Case report
39	Honda K, Yuzaki M, Fujimoto T, et al.	外科学第1講座	Reconstruction of the superior vena cava with an autologous pericardial patch for a giant superior vena cava aneurysm.	JTCVS Techniques 2020 Dec. ; 4:183-186	Case report
40	Aoishi Y, Oura S, Nishiguchi H, et al.	外科学第1講座	Risk factors for breast cancer-related lymphedema: correlation with docetaxel administration.	Breast cancer 2020 Sep. ; 27(5)929-937	Original Article
41	Hyo T, Matsuda K, Tamura K, et al.	外科学第2講座	Small intestinal arteriovenous malformation treated by laparoscopic surgery using intravenous injection of ICG: Case report with literature review.	International journal of surgery case reports 2020 Aug. ; 74:201-204	Case report
42	Nakamura Y, Matsuda K, Yokoyama S, et al.	外科学第2講座	Intraoperative maneuvers may affect the development of early postoperative small bowel obstruction after laparoscopic colorectal cancer surgery: Multicenter prospective cohort study.	International Journal of Surgery 2021 Feb. ; 86:52-56	Original Article
43	Okada KI, Kawai M, Hirono S, et al.	外科学第2講座	Impact of <i>Ninjin Yoeito</i> on Fatigue in Patients Receiving Nab-Paclitaxel Plus Gemcitabine Therapy: A Prospective, Single-Arm, Phase II Open Label, Nonrandomized, Historically-Controlled Study.	Current therapeutic research 2020 Sep. ; 93:100605	Original Article
44	Ojima T, Nakamura M, Hayata K, et al.	外科学第2講座	Robotic D2 total gastrectomy with en-mass removal of the spleen and body and tail of the pancreas for locally advanced gastric cancer.	Surgical oncology 2020 Dec. ; 35:22-23	Original Article
45	Kawai M, Yamaue H, Jang J, et al.	外科学第2講座	Propensity score-matched analysis of internal stent vs external stent for pancreatojejunostomy during pancreaticoduodenectomy: Japanese-Korean cooperative project.	Pancreatology 2020 Jul. ; 20(5)984-991	Original Article

小計9件

46	Nakamura M, Ueno M, Hayami S, et al.	外科学第2講座	Effective Response of Intrahepatic Cholangiocarcinoma to Pembrolizumab: A Case Report.	Anticancer research 2020 July ; 40(7)4123-4129	Original Article
47	Kitadani J, Ojima T, Nakamura M, et al.	外科学第2講座	Safety and feasibility of laparoscopic gastrectomy for remnant gastric cancer compared with open gastrectomy: Single-center experience.	Medicine 2021 Jan. 29 ; 100(4)e23932	Original Article
48	Ojima T, Nakamura M, Yamaue H, et al.	外科学第2講座	Full robotic Roux-en-Y reconstruction after gastrectomy for gastric cancer: a loop reconstruction technique.	Updates in surgery 2020 Dec. ; 72(4)1279-1281	Original Article
49	Ueno M, Hayami S, Nakamura M, et al.	外科学第2講座	Laparoscopic-specific procedure using dorsal approach to the middle hepatic vein in laparoscopic left hemihepatectomy.	Surgical oncology 2020 Dec. ; 35:139-140	Original Article
50	Ojima T, Nakamura M, Hayata K, et al.	外科学第2講座	Robotic Double Tract Reconstruction After Proximal Gastrectomy for Gastric Cancer.	Annals of surgical oncology 2021 Mar. ; 28(3)1445-1446	Original Article
51	Ojima T, Takifuji K, Nakamura M, et al.	外科学第2講座	Endoscopic submucosal tunnel dissection versus conventional endoscopic submucosal dissection for early gastric cancers: outcomes of 799 consecutive cases in a single institution.	Surgical endoscopy 2020 Dec. ; 34(12)5625-5631	Original Article
52	Hirono S, Hayata K, Kawai M, et al.	外科学第2講座	Complete REtraction of the StomaCh using pEnrose drain and liver reTractor (CRESCENT) during laparoscopic distal pancreatectomy.	Langenbeck's archives of surgery 2020 Dec. ; 405(8)1243-1250	Original Article
53	Ojima T, Nakamura M, Hayata K, et al.	外科学第2講座	Postoperative atrial fibrillation does not impact on overall survival after esophagectomy in patients with thoracic esophageal cancer: results from a randomized, double-blind, placebo-controlled trial.	Oncotarget 2020 Jun. 23 ; 11(25)2414-2423	Original Article
54	Hirono S, Shimokawa T, Nakagawa Y, et al.	外科学第2講座	Risk factors for pancreatic fistula grade C after pancreatoduodenectomy: A large prospective, multicenter Japan-Taiwan collaboration study.	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences 2020 Sep. ; 27:622-631	Original Article

小計9件

55	Okada KI, Kawai M, Hirono S, et al.	外科学第2講座	Preoperative Scoring System to Predict Prognosis in Patients Who Undergo Neoadjuvant Therapy for Pancreatic Cancer.	Anticancer research 2020 July ; 40(7)4033-4040	Original Article
56	Ojima T, Nakamura M, Hayata K, et al.	外科学第2講座	Laparoscopic Limited Resection for Duodenal Gastrointestinal Stromal Tumors.	Journal of gastrointestinal surgery 2020 Oct. ; 24(10)2404-2408	Original Article
57	Ueno M, Hayami S, Kawai M, et al.	外科学第2講座	Prognostic impact of adjuvant chemolipiodolization and treatment frequency on patients with hepatocellular carcinoma after hepatectomy: Prospective study with historical control group.	Surgical oncology 2021 Mar. ; 36:99-105	Original Article
58	Nakamura M, Ojima T, Katsuda M, et al.	外科学第2講座	Phase 1 Study of Combined Chemotherapy of Nab-Paclitaxel, S-1, and Oxaliplatin for Gastric Cancer with Peritoneal Metastasis (NSOX Study).	Oncology 2021 Jan. ; 99:57-61	Original Article
59	Nakamura Y, Yokoyama S, Matsuda K, et al.	外科学第2講座	Preoperative detection of KRAS mutated circulating tumor DNA is an independent risk factor for recurrence in colorectal cancer.	Scientific reports 2021 Jan. 11 (オンライン)	Original Article
60	Mizumoto Y, Hemmi H, Katsuda M, et al.	外科学第2講座	Anticancer effects of chemokine-directed antigen delivery to a cross-presenting dendritic cell subset with immune checkpoint blockade.	British journal of cancer 2020 Apr. ; 122(8)1185-1193	Original Article
61	Iwamoto H, Matsuda K, Hayami S, et al.	外科学第2講座	Quantitative Indocyanine Green Fluorescence Imaging Used to Predict Anastomotic Leakage Focused on Rectal Stump During Laparoscopic Anterior Resection.	Journal of laparoendoscopic & advanced surgical techniques. Part A 2020 May ; 30(5)542-546	Original Article
62	Ojima T, Nakamura M, Hayata K, et al.	外科学第2講座	Laparoscopic Roux-en-Y reconstruction using conventional linear stapler in robotic total gastrectomy for gastric cancer.	Surgical Oncology 2020 Jun. ; 33:9-10	Original Article
63	Yamoto T, Nishibayashi H, Ogura M, et al.	脳神経外科学講座	Three-dimensional morphology of the superior cerebellar artery running in trigeminal neuralgia.	Journal of clinical neuroscience 2020 Dec. : 82(Pt A)9-12	Original Article
64	Nakai Y, Nishibayashi H, Donishi T, et al.	脳神経外科学講座	Regional abnormality of functional connectivity is associated with clinical manifestations in individuals with intractable focal epilepsy.	Scientific reports 2021 Jan.15 (オンライン)	Original Article

小計10件

65	Fukai J, Arita H, Umehara T, et al.	脳神経外科学講座	Molecular characteristics and clinical outcomes of elderly patients with IDH-wildtype glioblastomas: comparative study of older and younger cases in Kansai Network cohort.	Brain tumor pathology 2020 Apr. ; 37(2)50-59	Original Article
66	Murata S, Minamide A, Iwasaki H, et al.	整形外科科学講座	Microendoscopic decompression for lumbosacral foraminal stenosis: a novel surgical strategy based on anatomical considerations using 3D image fusion with MRI/CT.	Journal of Neurosurgery: spine 2020 Dec. ; 33:789-795	Original Article
67	Taiji R, Takami M, Yukawa Y, et al.	整形外科科学講座	A short-segment fusion strategy using a wide-foot-plate expandable cage for vertebral pseudarthrosis after an osteoporotic vertebral fracture.	Journal of Neurosurgery: spine 2020 Dec. ; 33:862-869	Original Article
68	Nishiyama D, Iwasaki H, Kozaki T, et al.	整形外科科学講座	Prediction Of Pelvic Inclination In The Sitting Position After Corrective Surgery For Adult Spinal Deformity.	Spine Surgery and Related Research 2020 Jul. ; 4(3)242-246	Original Article
69	Yamashita S, Kohjimoto Y, Iguchi T, et al.	泌尿器科学講座	Ureteral wall volume at ureteral stone site is a critical predictor for shock wave lithotripsy outcomes: comparison with ureteral wall thickness and area.	Urolithiasis 2020 Aug. ; 48(4)361-368	Original Article
70	Yamashita S, Iwahashi Y, Deguchi R, et al.	泌尿器科学講座	Three-dimensional mean stone density on non-contrast computed tomography can predict ureteroscopic lithotripsy outcome in ureteral stone cases.	Urolithiasis 2020 Dec. ; 48(6)547-552	Original Article
71	Yamashita S, Kawabata H, Deguchi R, et al.	泌尿器科学講座	Natural History of Asymptomatic Pseudoaneurysm Soon After Robot-assisted Partial Nephrectomy: Single-center Prospective Study.	Urology 2021 Feb. ; 148:145-150	Original Article
72	Yamashita S, Iwahashi Y, Miyai H, et al.	泌尿器科学講座	Myosteatosi s as a novel prognostic biomarker after radical cystectomy for bladder cancer.	Scientific reports 2020 Dec. (オンライン)	Original Article
73	Yamashita S, Komori T, Kohjimoto Y, et al.	泌尿器科学講座	Essential roles of oncostatin M receptor β signaling in renal crystal formation in mice.	Scientific reports 2020 Oct. (オンライン)	Original Article
74	Noguchi T, Sakai K, Iwahashi, N, et al.	産科・婦人科学講座	Changes in the gene mutation profiles of circulating tumor DNA detected using CAPP-Seq in neoadjuvant chemotherapy-treated advanced ovarian cancer.	Oncology letters 2020 Apr. ; 19(4)2713-2720	Original Article

小計10件

75	Noguchi T, Iwahashi N, Sakai K, et al.	産科・婦人科学講座	Comprehensive Gene Mutation Profiling of Circulating Tumor DNA in Ovarian Cancer: Its Pathological and Prognostic Impact.	Cancers 2020 Nov. ; 12(11)3382	Original Article
76	Kono M, Fukushima K, Kamide Y, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	Features predicting treatment failure in pediatric acute otitis media.	Journal of infection and chemotherapy 2021 Jan. ; 27(1)19-25	Original Article
77	Inaba Y, Furukawa F, Azuma S, et al.	皮膚科学講座	Evaluation of the Safety and Usefulness of Citrus Jabara Fruit Peel Powder Cream for Patients with Atopic Dermatitis.	Trends in Immunotherapy 2020 Dec. ; 4(1)42-46	Others
78	Kaminaka C, Yamamoto Y, Sakata M, et al.	皮膚科学講座	Effects of low-dose Aloe sterol supplementation on skin moisture, collagen score and objective or subjective symptoms: 12-week, double-blind, randomized controlled trial.	Journal of dermatology 2020 Sep. ; 47(9)998-1006	Original Article
79	Kinoshita T, Yoshikawa T, Nishimura Y, et al.	リハビリテーション医学講座	Mobilization within 24 hours of new-onset stroke enhances the rate of home discharge at 6-months follow-up: a prospective cohort study.	International journal of neuroscience 2020 Jun. ; 25:1-13	Original Article
80	Mikami Y, Kouda K, Kawasaki S, et al.	リハビリテーション医学講座	Preoperative In-Hospital Rehabilitation Improves Physical Function in Patients with Pancreatic Cancer Scheduled for Surgery.	Tohoku journal of experimental medicine 2020 Aug. ; 251(4)279-285	Original Article
81	Hori S, Kamiyo Y, Yuzaki M, et al.	リハビリテーション医学講座	Effect of coronary artery bypass grafting on blood pressure response to head-up tilting.	The Journal of Physiological Sciences 2020 Apr. ; 70(1)21	Original Article
82	Tanioku T, Yoshida A, Aratani Y, et al.	麻酔科学講座	Validation of noninvasive continuous arterial pressure measurement by ClearSight System™ during induction of anesthesia for cardiovascular surgery.	BMC anesthesiology 2020 Jul. ; 20(1)176	Original Article

小計8件
合計82件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Takeshima K, Ariyasu H, Uraki S, et al.	内科学第1講座	Head and Neck Paraganglioma Atypically Carrying a Succinate Dehydrogenase Subunit B Mutation (L157X).	Internal medicine 2020 May.1 ; 59(9) 1167-1171	Original Article
2	Inaba H, Ariyasu H, Iwakura H, et al.	内科学第1講座	Autoimmune polyglandular syndrome type 2 and autoimmune hepatitis with thymoma-associated myasthenia gravis: case report.	BMC endocrine disorders 2020 Apr.7 ; 20(1)47	Original Article
3	Inaba H, Ariyasu H, Iwakura H, et al.	内科学第1講座	Distinct clinical features and prognosis between persistent and temporary thyroid dysfunctions by immune- checkpoint inhibitors.	Endocrine journal 2021 Feb.28. ; 28:68(2)231-241	Original Article
4	Uraki S, Ariyasu H, Doi A, et al.	内科学第1講座	MSH6/2 and PD-L1 Expressions Are Associated with Tumor Growth and Invasiveness in Silent Pituitary Adenoma Subtypes.	International journal of molecular sciences 2020 Apr. ; .21(8) 2831	Original Article
5	Kishimoto S, Sasaki H, Kurusu S, et al.	内科学第1講座	Bilateral atrophy of the extensor digitorum brevis muscle might be a useful sign for diagnosing diabetic polyneuropathy in Japanese men who do not sit in the traditional “seiza” style.	Journal of Diabetes Investigation 2021 Mar. ; 12(3) 398-408	Original Article
6	Takeshima K, Ariyasu H, Uraki S, et al.	内科学第1講座	False-positive staining of thyroglobulin distinguished from mixed medullary and follicular thyroid carcinoma by duplex in situ hybridization.	Endocrine journal 2020 Oct. 28 ; 67(10) 1007- 1017	Original Article
7	Takeshima K, Li Y, Kakudo K, et al.	内科学第1講座	Proposal of diagnostic criteria for IgG4-related thyroid disease.	Endocrine journal 2021.Jan. 28 : 68(1)1-6	Original Article

小計7件

8	Morita S, Takeshima K, Ariyasu H, et al.	内科学第1講座	Expression of unfolded protein response markers in the pheochromocytoma with Waardenburg syndrome: a case report.	BMC endocrine disorders 2020 Jun. ; 20(1)90	Case report
9	Kurimoto C, Inaba H, Ariyasu H, et al.	内科学第1講座	Predictive and sensitive biomarkers for thyroid dysfunctions during treatment with immune-checkpoint inhibitors.	Cancer science 2020 May ; 111(5)1468-1477	Original Article
10	Kitano M, Gress T, Garg P, et al.	内科学第2講座	International consensus guidelines on interventional endoscopy in chronic pancreatitis. Recommendations from the working group for the international consensus guidelines for chronic pancreatitis in collaboration with the International Association of Pancreatology, the American Pancreatic Association, the Japan Pancreas Society, and European Pancreatic Club.	Pancreatology 2020.Sep. ; (6) 1045-1055	Review
11	Hatamaru K, Kitano M.	内科学第2講座	Can early diagnosis of EUS-FNA needle tract seeding for pancreatic cancer improve patient prognosis?	Digestive endoscopy 2020. Jul. ; 32(5) 742-744	Review
12	Yamashita Y, Tanioka K, Kawaji Y, et al.	内科学第2講座	Utility of Elastography with Endoscopic Ultrasonography Shear-Wave Measurement for Diagnosing Chronic Pancreatitis.	Gut and liver 2020 Sep.15 ; 14(5)659-664	Original Article
13	Ozawa Y, Sugimoto T, Azuma Y, et al.	内科学第3講座	Prospective, multicenter, single-arm phase II trial of pembrolizumab combined with carboplatin and pemetrexed in elderly patients with advanced, non-squamous non-small cell lung cancer.	BMJ open 2020. Jul.21 ; 10(7)e037746	Original Article
14	Akamatsu H, Murakami E, Oyanagi J, et al.	内科学第3講座	Immune-related adverse events by immune-checkpoint inhibitors significantly predict durable efficacy even in responders with advanced non-small cell lung cancer.	The ncologist 2020.Apr. ; 25(4)e679-e683	Original Article

小計7件

15	Nakai M, Shimokado A, Kubo T, et al.	内科学第4講座	Expression of Cyclophilin A in Coronary Artery Plaque with Intraplaque Hemorrhage Is More Frequent in Deceased Patients Who Had Impaired Kidney Function.	International Heart Journal 2020 Nov. 28 ; 61(6)1129-1134	Original Article
16	Akasaka T, Kubo T.	内科学第4講座	OCT-derived coronary calcified nodules as a predictor of high-risk patients.	EuroIntervention 2020 Aug. 28 ; 16(5)361-363.	Review
17	Tanaka A,.	内科学第4講座	Stent overlap is still an Achilles' heel of drug eluting stent?	Cardiovascular revascularization medicine 2020 Sep. ; 21(9) 1113-1114	Letter
18	Shiono Y, Kubo T, Higashioka D, et al.	内科学第4講座	Careful statistical consideration to the inter-study reproducibility of iFR angio-coregistration.	Journal of Cardiology 2020 Nov. ; 76(5)531-532	Letter
19	Shiono Y, Kubo T, Akasaka T.	内科学第4講座	Diastolic Pressure Ratio and Resting Full Cycle Ratio are very similar, but not exactly the same.	Circulation Journal 2020 Jun.25 ; 84(7)1059-1061	Others
20	Higashiura M, Ohya M, Tanaka Y, et al.	腎臓内科学講座	Correlation between haemoglobin level and type of erythropoiesis-stimulating agent at initiation of haemodialysis.	International journal of clinical pharmacy 2020 Apr. ; 42(2) 635-641	Original Article
21	Tanaka Y, Ohya M, Yano T, et al.	腎臓内科学講座	Association between serum lipids, polyunsaturated fatty acids, and prognosis in maintenance hemodialysis patients.	Hemodialysis International 2021 Jan. ; 25:104-112	Original Article
22	Hosoi H, Nishikawa S, Kida Y, et al.	血液内科学講座	Susceptibility of patients receiving chemotherapy for haematological malignancies to scabies.	Journal of hospital infection 2020 Nov. ; 106(3)594-599	Original Article
23	Tabata K, Mikita N, Yasutake M, et al.	リウマチ・膠原病科学講座	Up-regulation of IGF-1, RANTES and VEGF in patients with anti-centromere antibody-positive early/mild systemic sclerosis.	Modern rheumatology 2021 Jan. ; 31(1) 171-176	Original Article
24	Riko M, Toyoshima K, Shimokaze T, et al.	小児科学講座	Clinical Presentation of Preterm Infants with Ventricular Septal Defect.	Tohoku journal of experimental medicine 2020 Dec. ; 252:281-286	Original Article

小計10件

25	Yamada S, Takahashi S, Ohoshi Y, et al.	神経精神医学講座	Widespread white matter microstructural abnormalities and cognitive impairment in schizophrenia, bipolar disorder, and major depressive disorder: Tract-based spatial statistics study.	Psychiatry research-Neuroimaging 2020 Apr. ; 30:298:111045	Original Article
26	Takahashi S, Keeser D, Rauchmann B, et al.	神経精神医学講座	Effect of aerobic exercise on cortical thickness in patients with schizophrenia-A dataset.	Data in Brief 2020 Jun. ; 30:105517	Original Article
27	Iguchi H, Murata S, Kawago M, et al.	外科学第1講座	Unique clinicopathological characteristics of pulmonary squamous cell carcinoma with part-solid nodule.	Respirology case reports 2021 Jan. ; .9(1)e00692	Case report
28	Agematsu K, Nagashima M, Nishimura Y, et al.	外科学第1講座	Corridor technique for the coronary arteries from a single arterial sinus.	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals 2020 Jul. ; 28(6)333-335.	Case report
29	Matsuda K, Tamura K, Iwamoto H, et al.	外科学第2講座	Tumor Sidedness Is Associated with Survival in Patients with Synchronous Colorectal Peritoneal Carcinomatosis.	Oncology 2020 Apr. ; 98(4) 230-236	Original Article
30	Kato H, Mitani Y, Goda T, et al.	外科学第2講座	Hepatic Inflammatory Myofibroblastic Tumor Detected in the Fetal Period That Caused an Oncologic Emergency.	Case reports in oncology 2020 Dec. ; 13(3)1513-1519	Case report
31	Kato H, Mitani Y, Goda T, et al.	外科学第2講座	Concomitant Gallbladder Agenesis with Methimazole Embryopathy.	The American Journal of Case Reports 2020 Sep. ; 21:e926310	Case report
32	Kato H, Mitani Y, Goda T, et al.	外科学第2講座	A case of pediatric duodenal transection caused by abuse successfully treated by duodenojejunostomy.	Acute medicine and surgery 2020 July 13 ; 7(1)e541.	Case report
33	Ueno M, Iida H, Kaibori M, et al.	外科学第2講座	Mortality analysis of Aeromonas hydrophila infection in hepato-biliary pancreatic surgery: Multicenter retrospective observational study.	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences 2020 Oct. ; 27(10)747-755	Original Article
34	Kawai M, Hirono S, Okada KI, et al.	外科学第2講座	Radiographic Splenic Artery Involvement Is a Poor Prognostic Factor in Upfront Surgery for Patients with Resectable Pancreatic Body and Tail Cancer.	Annals of surgical oncology 2021 Mar. ; 28(3)1521-1532	Original Article

小計10件

35	Hirono S, Kawai M, Okada KI, et al.	外科学第2講座	Division of the pancreas at the neck reduces postoperative pancreatic fistula in laparoscopic distal pancreatectomy: Comparison of pancreatic division at the body.	Pancreatology 2021 Mar. ; 21(2)480-486	Original Article
36	Sasaki T, Katagi H, Goldman S, et al.	脳神経外科学講座	Convection-Enhanced Delivery of Enhancer of Zeste Homolog-2 (EZH2) Inhibitor for the Treatment of Diffuse Intrinsic Pontine Glioma.	Neurosurgery 2020 Dec. ; 87(6)E680-E688	Original Article
37	Kozaki T, Minamide A, Iwasaki H, et al.	整形外科科学講座	Funicular pain: a case report of intermittent claudication induced by cervical cord compression.	BMC musculoskeletal disorders 2020 May ; 21(1)302	Case report
38	Sonekatsu M, Sonohata M, Inoue T, et al.	整形外科科学講座	Investigation of the priority among the roentgenogram measurements in acetabular dysplasia.	Journal of Orthopaedic Surgery 2020 Sep-Dec. ; 28(3)1-6.	Original Article
39	Sonekatsu M, Kanno S, Yamada H, et al.	整形外科科学講座	Selective impairment of slowly adapting type 1 mechanoreceptors in mice following vincristine treatment.	Neuroscience letters 2020 Nov. 1 ; 738:135335	Original Article
40	Takami M, Yoshida M, Minamide , et al.	整形外科科学講座	Does prophylactic use of topical gelatin-thrombin matrix sealant affect postoperative drainage volume and hematoma formation following microendoscopic spine surgery?: a randomized controlled trial.	The spine journal 2021 Mar. ; 21(3)446-454	Original Article
41	Takami M, Taiji R, Okada M, et al.	整形外科科学講座	Lateral lumbar interbody fusion after reduction using the percutaneous pedicle screw system in the lateral position for Meyerding grade II spondylolisthesis: a preliminary report of a new lumbar reconstruction strategy.	BMC musculoskeletal disorders 2021 Jan. ; 22:17	Original Article
42	Fukui D, Matsuda K, Zimmer M, et al.	整形外科科学講座	A Novel Bioengineered Material to Reverse Intervertebral Disc Degeneration.	Journal of Medicine and Surgical Sciences 2020 May 4 ; 2(1)1-10	Original Article

小計8件

43	Murakami K, Nagata K, Hashizume H, et al.	整形外科科学講座	Prevalence of cervical anterior and posterior spondylolisthesis and its association with degenerative cervical myelopathy in a general population.	Scientific Reports 2020 Jul. ; 10(1)10455	Original Article
44	Nishioka T, Shirakawa Y, Okada Y, et al.	形成外科学講座	A case of surgically treated traumatic ptosis caused by scratching by human hand.	Taiwan journal of ophthalmology 2020 Apr-Jun. ; 10(2)131-133	Case report
45	Wada Y, Miyazaki H, Kusahara H, et al.	形成外科学講座	Successful Intralesional Laser Therapy for Sclerotherapy-resistant Huge Venous Malformation.	Plastic and reconstructive surgery. Global open 2020 Dec. ; 8(12) e3269	Case report
46	Ueno K, Kunimoto K, Iwahashi Y, et al.	形成外科学講座	Bilateral Eyebrow Sclerosis: A New Clinical Entity.	Plastic and reconstructive surgery. Global open 2020 Jun. ; 8(6)e2883	Case report
47	Ueno K, Shirakawa Y, Wada Y, et al.	形成外科学講座	Frontalis suspension procedure with an upper retroauricular fascia graft: a preliminary case report.	International journal of ophthalmology 2020 Dec.18 ; 13(12)2012-2014	Case report
48	Iwahashi Y, Matsunaga N, Kusumoto H, et al.	泌尿器科学講座	Undifferentiated pleomorphic sarcoma of the prostate in a young man.	IJU case reports 2020 Jul. ; .3(4)145-148	Case report
49	Iwahashi N, Ikezaki M, Nishikawa T, et al.	産科・婦人科学講座	Sulfated glycosaminoglycans mediate prion-like behavior of p53 aggregates.	Proceedings of the National Academy of Sciences - PNAS 2020 Dec.29 ; 117(52)33225-33234	Original Article
50	Okada Y, Zhang Y, Zhang L, et al.	眼科学講座	Shp2-mediated MAPK pathway regulates Δ Np63 in epithelium to promote corneal innervation and homeostasis.	Laboratory investigation 2020 Apr. ; 100(4) 630-642	Original Article
51	Saika S.	眼科学講座	Transient receptor potential ion channel family has come on to the front stage in the eye research field.	Taiwan journal of ophthalmology 2020 Apr-Jun. ; 10(2)77-79	Original Article
52	Yasuda S, Sumioka T, Iwahashi H, et al.	眼科学講座	Loss of sphingosine 1-phosphate receptor 3 gene function impairs injury-induced stromal angiogenesis in mouse cornea.	Laboratory investigation 2021 Feb. ; 101(2)245-257	Original Article

小計10件

53	Takada Y, Sumioka T, Nakagawa M, et al.	眼科学講座	Long-term intraocular pressure after switching a combination ophthalmic medication of β -blocker/prostaglandin.	Taiwan journal of ophthalmology 2020 Apr-Jun. ; 10(2)95-99	Original Article
54	Takada Y, Sumioka T, Ishikawa N, et al.	眼科学講座	A Case of Repeating Transient Increase in Intraocular Pressure by Instability of an Intraocular Lens Implanted in the Capsular Bag.	Case reports in ophthalmology 2020 Jan-Apr. ; 11(1)60-67	Original Article
55	Takada Y, Yamanaka O, Okada Y, et al.	眼科学講座	Effects of a prostaglandin F2alpha derivative glaucoma drug on EGF expression and E-cadherin expression in a corneal epithelial cell line.	Cutaneous and ocular toxicology 2020 Jun. ; 39(2)75-82	Original Article
56	Enomoto K, Hirayama S, Kumashiro N, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	Synergistic Effects of Lenvatinib (E7080) and MEK Inhibitors against Anaplastic Thyroid Cancer in Preclinical Models.	Cancers 2021 Feb. ; 13(4)862.	Original Article
57	Tamagawa S, Enomoto K, Gunduz E, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	MicroRNA 200b promotes mesenchymal-to-epithelial transition in anaplastic thyroid carcinoma.	Oncology letters 2020 Oct. ; 20(4)3	Original Article
58	Enomoto K, Hotomi M.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	Amino Acid Transporters as Potential Therapeutic Targets in Thyroid Cancer.	Endocrinology and metabolism 2020 Jun. ; 35(2)227-236	Review
59	Higashino N, Sonomura T, Fukuda K, et al.	放射線医学講座	Feasibility and Safety of n-Butyl Cyanoacrylate-Lipiodol-Iopamidol as an Alternative Liquid Embolic Material.	Cardiovascular and interventional radiology 2021 Mar. ; 44(3)482-488	Original Article
60	Tanaka R, Sonomura T, Kumamoto A, et al.	放射線医学講座	Renal Artery Embolization Using an Ethanol-Lipiodol® Mixture for Enlarged Polycystic Kidneys: Achieving Kidney Transplantation Without Nephrectomy.	Cardiovascular and interventional radiology 2021 Jan. ; 44(1)172-175	Letter
61	Shibata M, Miyamoto K, Kato S.	救急・集中治療医学講座	Comparison of the circulatory effects of continuous renal replacement therapy using AN69ST and polysulfone membranes in septic shock patients: A retrospective observational study.	Therapeutic apheresis and dialysis 2020 Oct. ; 24(5) 561-567	Original Article

小計9件

62	Nakashima T, Kawazoe Y, Iseri T, et al.	救急・集中治療医学講座	The effect of positive end-expiratory pressure on stroke volume variation: an experimental study in dogs.	Clinical and experimental pharmacology and physiology 2020 Jun. ; 47(6) 1014-1019	Original Article
63	Shima N, Miyamoto K, Shibata M, et al,	救急・集中治療医学講座	Activities of daily living status and psychiatric symptoms after discharge from an intensive care unit: a single-center 12-month longitudinal prospective study.	Acute Medicine & Surgery 2020 Jan-Dec. ; 7(1)e557	Original Article
64	Miyamoto K, Shibata N, Ogawa A, et al.	救急・集中治療医学講座	Prehospital and in-hospital quick Sequential Organ Failure Assessment (qSOFA) scores to predict in-hospital mortality among trauma patients: an analysis of nationwide registry data.	Acute medicine & surgery 2020 Jan-Dec. ; 7(1)e532	Original Article
65	Miyamoto K, Nakashima T, Shima N, et al.	救急・集中治療医学講座	Utility of a prediction model for delirium in intensive care unit patients (PRE-DELIRIC) in mechanically ventilated patients with sepsis.	Acute medicine & surgery 2020 Jan-Dec. ; 7(1)e589	Original Article
66	Miyamoto K, Yonemitsu T, Tanaka R, et al.	救急・集中治療医学講座	Protracted course of coronavirus disease with severe acute respiratory distress syndrome: a case report.	Acute medicine & surgery 2020 Jan-Dec. 7(1):e521	Case report
67	Murata SI, Kuroda M, Kawamura N, et al.	人体病理学講座	Microtubule-organizing center-mediated structural atypia in low- and high-grade urothelial carcinoma.	Virchows Archiv 2021 Feb. ; 478(2)327-334	Original Article
68	Kojima F, Gandhi J, Matsuzaki I, et al.	人体病理学講座	Comprehensive Clinicopathologic Analyses of Acquired Cystic Disease-associated Renal Cell Carcinoma With Focus on Adverse Prognostic Factors and Metastatic Lesions.	The American journal of surgical pathology 2020 Aug. ; 44(8)1031-1039	Original Article

小計7件
計68件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて研究が適正に実施されることを目的として倫理審査委員会が行う審査の手続きと委員会の運営に係る手順を定める。 具体的な記載事項：委員会の責務、構成、成立要件、審査事項、審査方法、学長・病院長・研究責任者等の役割と責務、利益相反管理等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 3 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 和歌山県立医科大学利益相反ポリシー（COI 定義、マネジメント体制） 和歌山県立医科大学利益相反マネジメント要綱（マネジメント対象者、対象事象、COI 委員会）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 5 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 人を対象とする医学系研究を実施する上で、研究者が知っておくべき基本的事項に関する講習を E-ラーニングで実施。 1. 配信期間：令和 2 年 9 月 11 日～令和 3 年 2 月 28 日 2. 講義動画（合計 2 時間） 1) 臨床研究のデザインとレギュレーション 2) 研究責任者の役割 3) インフォームド・コンセント、記録の保存 4) 監査の指摘事例に基づく実施上の注意点	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

【糖尿病・内分泌・代謝内科】

○当大学附属病院及び県内多数の医療機関との連携による多彩な研修プログラムを設定しており、研修医が幅広く多彩な疾患を経験できる機会を持てるように努めている。

【消化器内科】

○以下の最先端の内視鏡的技術、超音波下治療技術を早期に修得できるようそれぞれの研修カリキュラムを組んでおります。

- ・超音波下肝腫瘍ラジオ波焼灼術
- ・経口内視鏡的食道筋層切開術
- ・内視鏡的消化管癌粘膜下層剥離術
- ・超音波内視鏡下瘻孔形成術
- ・超音波内視鏡下穿刺生検
- ・バルーン小腸内視鏡下検査および治療

【呼吸器内科・腫瘍内科】

○和歌山県立医科大学内科専門医研修プログラムによる専門研修を行う。まずは内科専門医取得を目指し、呼吸器学会、アレルギー学会、呼吸器内視鏡学会、臨床腫瘍学会などの指導医（医局スタッフ）の指導のもとで、専門的な診断知識、手技の経験と習得が可能である。

【循環器内科】

○心血管病の診療は正しい診断から始まります。身体所見と心電図、胸部X線写真など基本的検査を深読みして情報を集めます。超音波、心臓CT、MRIなど先端的診断機器を用い、必要に応じて心臓カテーテル、電気生理学的検査など侵襲的診断を追加して病態に迫ります。診断がついた後は治療です。薬物療法のみならず低侵襲手術を内科医が実施できるのが、循環器内科の特徴の一つです。具体的には経皮的冠動脈インターベンション、カテーテルアブレーション、ペースメーカー植込み、経カテーテル的大動脈弁留置術など従来では手術でしか治療できなかった疾患を内科医の手によって根本治療が可能です。研修目標としては、まず内科医そして循環器内科医としての臨床能力を身に付けていただきます。そのうえで循環器内科のsub specialityを専攻し、最終的には世界で唯一無二を目指す、すなわち研究遂行能力を習得していただきます。

【腎臓内科（人工透析）】

1. 健診や学校検尿における検尿異常から腎生検が施行でき、腎臓病を早期に診断できる
2. 慢性腎炎、ネフローゼ症候群に対して適切な治療を選択できる
3. 保存期腎生検の管理として透析遅延のための適切な治療管理ができる
4. 急性血液浄化療法の適応を判断し施行できる
5. 透析導入に対して腎代替療法の全てを患者に説明し選択できる機会を与える
6. 血液透析においてシャント作成を行い管理ができる
7. 血液透析及び腹膜透析の適正な維持透析管理ができる
8. 長期透析患者の合併症管理ができる
9. 腎移植患者の適正な管理ができる

【血液内科】

○血液内科の一般診療全般、血液悪性腫瘍に対する化学療法、自家・同種造血幹細胞移植について、知識、技術の習得を目標として研修を行う。

【脳神経内科】

○病院での勤務を中心に臨床神経学を学び、最短7年目で神経内科専門医を取得できるプログラムや大学病院での研究、希望に応じて海外留学もできるプログラムを用意しております。いずれの

場合でも、原則3年目は大学病院でしっかり神経学の基礎を学んでいただくため、大学病院で医員という立場で研修をスタートします。大学では病棟医として勤務していただきます。診療体制としては、病棟医長をはじめとした医局スタッフが研修医の直接指導にあたっており、彼らをリーダーとして3-4チームのグループ診療を行っております。病棟では教授回診を毎週行っております。また、教授外来の新患外来に付いて外来診療を学ぶこともできます。定期的に神経生理学的検査（筋電図・伝導速度検査・大脳誘発電位検査、脳波など）や頸動脈超音波検査・経頭蓋超音波検査を実施しており、担当教員から直接指導を受け、検査の仕方、所見の読み方を学習します。

【リウマチ・膠原病科】

○当科疾患は全身性疾患で鑑別疾患も多いため、まず診断技術の向上（特に免疫学的検査の解釈）を目指す。また、ステロイドや免疫抑制・調節薬、生物学的製剤治療についても具体的な使用法を習得できるようにする。

【小児科】

○小児科学全般にわたる知識、態度、判断力及び診療技術の習得を目的とする。研修は日本小児科学会の小児科専門医を目指す医師が研修すべき教育目標として作成された「小児科医の到達目標」に則しており、小児科専門医の取得に必要な関連領域（小児外科、脳神経外科、整形外科、耳鼻科、皮膚科、眼科、産婦人科、泌尿器科、歯科口腔外科、麻酔科、リハビリ科）知識の習得も満たすことができ、3年間の研修を終了後は日本小児科学会専門医の受験資格を取得できる。当研修施設は、大学病院であるとともに和歌山県の子ども病院の機能も備えており、心臓外科、腹部外科、脳神経外科等の小児外科疾患の手術症例も豊富である。また、一次から三次の小児救急患者も随時受け入れており、小児のプライマリーケアから高度先端医療までの全てを満たした研修を行うことが可能である。

【神経精神科】

○クロザピンを使用できる施設であり、治療抵抗性統合失調症治療の治療について学ぶことができる。

修正型電気けいれん療法を実施できる施設であり、治療抵抗性統合失調症や治療抵抗性気分障害、また自殺が切迫した患者などの治療について学ぶことができる。

うつ病リワークプログラムを行うデイケアを実施しており、うつ病への認知行動療法やリハビリテーション、また産業精神医学について学ぶことができる。

毎週行われる入院患者カンファレンスで上級医の指導の下で診療にあたることができ、日本精神神経学会専門研修プログラムの基幹病院に認定されている。

【心臓血管外科、呼吸器外科・乳腺外科】

○1. 心臓血管外科では術者として胸骨正中切開、大伏在静脈採取、体外循環装着、難易度に応じて下肢動脈バイパスなどを行う。第一助手または第二助手として開心術に参加する。ICU管理を含めた開心術の周術期管理を研修する。

2. 呼吸器外科では術者として難易度に応じて小開胸胸腔鏡下手術を行う。第一助手、第二助手として呼吸器外科手術（ロボット手術を含む）に参加する。呼吸器外科の周術期管理を研修する。

3. 乳腺外科では術者として単純乳房切除術を行う。第一助手または第二助手として乳癌手術に参加する。乳癌の画像診断、薬物治療、放射線治療を学ぶ。乳腺外科の周術期管理を研修する。

【消化器・内分泌・小児外科】

○当教室は、内視鏡外科技術認定医7名（胃：4名、大腸：4名）、肝胆膵外科高度技術指導医および専門医8名を有し、食道癌、膵臓癌、直腸癌などの高難度の手術が多いのが特徴である。したがって、後期研修医に対しては、上部消化管、下部消化管、肝胆膵疾患の各グループに3か月ずつローテーションを行い、各グループの指導医のもとで、高度専門医療を習得するよう指導している。具体的には、週2回の術前カンファレンスでは、最新の診断技術を用いた術前診断および臨床研

究について厳密に討論し指導し、術後カンファレンスではその日の行った手術のプレゼンテーションを行わせ、手術の理解を促進している。また、週1回の総回診では、各患者の病状説明を行わせ、今後の最適な治療法の指導を受け、術後管理の習得に努めさせている。また、週1回の早朝セミナーでは、各疾患の最新の治療法、および進行中の臨床研究について医局員から講義を受け、将来、自分で臨床研究を構築できるよう指導を行っている。また、指導医によるドライラボでの模擬実習、および実験動物を使った手術手技研修を行い、常に手術手技を向上するように指導している。

【脳神経外科】

○脳腫瘍、脳血管障害、機能外科、脊髄・脊椎外科などのサブスペシャリティ領域の研修が可能である。各領域に2名程度の研修統括者を配置し、研修医の指導を行っている。それぞれの領域において、他施設から紹介された患者に対して高度医療を1週間あたり2～3症例の頻度で行っており、研修医は短期間でも効率的に密度の高い研修が行える。

【整形外科】

○関節疾患、脊椎疾患、手外科疾患、骨軟部腫瘍および小児整形疾患等の外来での対応から、手術適応の判断能力の育成、手術のプランニングや患者の診断技術の養成、さらに手術や術後リハビリの実践までを行わせることで、高度な医療を遂行できる能力を身につけさせるための研修を行っている。

【形成外科】

○形成外科は、外傷、腫瘍、先天異常による欠損や変形の病態を把握し、診断法を習熟した後、再建法のプランニングが立案できることを目標とする。

また、特定の担当臓器をもたない形成外科は、チーム医療の重要性を示す。

【泌尿器科】

○和歌山県立医科大学附属病院泌尿器科においては、泌尿器科悪性腫瘍に対するロボット支援手術（年間約140例）や腹腔鏡手術（年間約50例）が多いため、泌尿器科診療に必要な解剖や術式の理解が得やすいのみならず、手術の基本的な手技の習得も可能である。

その他にも、排尿障害、尿路結石、女性泌尿器、腎移植なども扱っており、それぞれの領域を専門とする指導医の下で研修を受けることができる。泌尿器科専門医のみならず、がん治療認定医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、腎移植認定医などの取得も可能である。

【産科・婦人科】

○産科婦人科においては、産科婦人科専門医（13名）の指導の下、全ての領域における研修をおこなっている。サブスペシャリティに関しても産科では周産期母体胎児専門医3名、婦人科では婦人科腫瘍専門医4名の指導の下、ハイレベルな研修を行っている。県下唯一の総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠や分娩の豊富な症例数を有し、また婦人科癌手術症例も多数ありハイレベルな研修が可能である。

【眼科】

○複数の指導医の元で主治医として軽症から重症まで幅広く疾患を受け持ち、患者との接し方を学び、向上させるとともに、検査・診察及び治療方針の決定に携わる。また多くの患者の手術介助、症例検討会でのプレゼンテーション、地方及び全国学会発表を行っている。

【耳鼻咽喉科・頭頸部外科】

○基幹研修施設である和歌山県立医科大学附属病院とひだか病院、紀南病院の2関連研修施設において、それぞれの特徴を生かした耳鼻咽喉科専門研修を行い、日耳鼻研修到達目標や症例経験値基準に掲げられた疾患や手術を経験する。プログラムに定められた研修の評価は施設ごとに指導管理責任者（関連研修施設）、指導医、および専攻医が行い、プログラム責任者が最終評価を行う。

う。4年間の研修修了時には、すべての領域の研修到達目標を達成する。さらに、4年間の研修中、認定されている学会において学会発表を少なくとも3回以上行う。また、筆頭著者として学術雑誌に1編以上の論文執筆・好評を行う。研修の評価や経験症例は日耳鼻が定めた方法でオンライン登録する。

本プログラムでは、専門医および学位取得コースとして、大学院博士課程進学が可能です。大学院在籍期間は4年間で、大学院進学時期により年次プログラムが変動します。大学院進学時期から専攻医が興味を持つ領域の研究テーマを臨床実習の学術的なバックグラウンドを肉付けするようにして研究をスタートします。

【皮膚科】

○皮膚疾患を診断するには、患者さんの話に耳を傾け、皮疹をよく観察することから始める。後期研修では、患者さんの背景と皮疹から、鑑別診断を列挙する訓練を行う。視診の補助手段として、ダーモスコピーや超音波検査の手ほどきを受けることも可能です。

外来では、専門医の診察を見学し、問診のポイントや皮疹を見るコツを習得。早い人は、後期研修がスタートして、数か月で外来診察を開始。自分の目で観察して、わからないことは、専門医に訊ねて、知識を広げる。皮膚生検や簡単な外来手術は指導医のもと、積極的に行う。代表的な皮膚疾患については、初心者向けの病理組織勉強会が定期的に行われる。

当教室が重点を置いている分野の1つが、免疫アレルギー。免疫アレルギーが病態に深くかかわる皮膚疾患、たとえば、膠原病や自己免疫性水疱症、薬疹について幅広い知識を修得することが可能。皮内テスト、プリックテスト、貼布試験など、アレルギー皮膚疾患の基本検査は、ルーチンに施行。MED、MPD、光貼布試験などの光線検査にも習熟。

治療については、全身療法、外用療法を問わず、適応、使用法副作用、禁忌の理解。全身療法では、抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬、抗腫瘍薬、免疫抑制薬、副腎皮質ステロイド、消炎鎮痛薬、抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬のほか、レチノイドやDDS、血漿交換にも熟知。外用療法では、副腎皮質ステロイド外用剤、非ステロイド抗炎症剤、保湿剤、免疫調整外用剤、ビタミンD3外用剤、抗真菌剤、抗潰瘍剤が中心。また、皮膚外科、レーザー療法については体験する機会が多い。光線療法も随時施行。

当教室は、アトピー性皮膚炎やケミカルピーリング、血管炎、ざ瘡、蕁麻疹、疥癬、血管腫などのガイドライン作成にも積極的に関与してきた経緯があり、系統的な治療法が、比較的短期間で習得できる。

後期研修

目標：皮膚科専門医を目指す。日本皮膚科学会入会、5年後に資格を得る。その間、学会発表、論文、講習会の所定の単位を得る。資格を満たした後は、専門医試験を受ける。

更に、皮膚悪性腫瘍と美容皮膚・レーザー指導専門医コースがある。

学ぶべき事：皮膚科全般。

専門医を取得後は、アレルギー、リウマチ膠原病、皮膚外科、皮膚腫瘍学、皮膚病理学、美容皮膚科などの専門性を徐々に習得するようになる。

コース：

1年目 和医大皮膚科あるいは関連病院で上記の皮膚科臨床基礎を学ぶ。

2年目 和医大皮膚科あるいは関連病院で上記の皮膚科臨床基礎を学ぶ。

3年目 各人の希望を聞き教室の状況の判断から、おおむね、

1) 和医大皮膚科で臨床を続ける、

2) 大学院（勤務しながら研究生活を送る社会人大学院もいます）、

3) 関連病院で研鑽、など。

その後は、外国留学、国内留学などのコースがあります。ちなみに、過去、独ハイデルベルク大学、米国コロラド大学、米国ケースウェスタンリザーブ大学、京大膠原病内科、兵庫医大リウマチ・膠原病科に留学しています（ほぼ2年間）。

【歯科口腔外科】

○本院の歯科医師臨床研修の目標は、歯科医師としての人格の涵養に努めるとともに、患者中心

の全人的医療を理解し、すべての歯科医師に求められる基本的な診療能力（態度、技能及び知識）を身につけ、頻度の高い疾患や病態およびプライマリ・ケアに対応できる歯科医師を育成することであり、研修を通じて生涯研修の第一歩とすることである。

初期研修歯科医では、和歌山県に唯一存在する当医科大学附属病院にて地域医療に不可欠な高頻度の疾患を中心に全身管理に必要な医学的知識の習得に努めながら、「A歯科医師としての基本的価値観、B資質・能力、C基本的診療業務」を自ら実践することで、基本的な歯科医療に必要な臨床能力を身に付けるプログラムを実施している。

後期研修歯科医では、麻酔科、救急科での研修を通じて全身管理に必要な更に高度な医学的知識を全員に習得させ、研修後には歯科医療に関連する多職種連携を更に進めた当医科大学附属病院での臨床研修を実施している。なお、研究の評価には自己評価に加えて、指導歯科医やコメディカルからの評価を行っている。

【放射線科】

○医学放射線学会、放射線腫瘍学会、日本専門医機構に届出のプログラムにしたがって、画像診断、IVR、放射線治療の研修を行っている。

【リハビリテーション科】

○ICUを含めた超急性期のリハビリテーション医療に関する診察・検査・リハビリテーション処方の指導、実践を行う。

リハビリテーション医療の専門領域である、運動器リハビリテーション、脳血管疾患リハビリテーション、心大血管リハビリテーション、呼吸器リハビリテーションを含め、各疾患に対するリハビリテーション医療を指導する。

義肢装具外来、嚥下造影検査、脊髄損傷外来などが実施できる知識・技術を習得する。

【救急科】

○高度救命救急センターにおいて、和歌山県内の救急患者を救急車による陸路搬送で年間5,500人、ドクターヘリによる航空搬送で年間約400人を受け入れており、緊急手術や血管内治療など高度な救命処置が必要となる最重症の救急症例を多数経験することができる研修施設である。高度救命救急センターは、施設内に救急車搬送患者の対応と共に、時間外に来院したウォークイン救急症例にも対応するER外来を整備しており、数多くの救急患者の中から高度医療が必要となる症例をトリアージして専門医診療科に引き継ぐことのできる診療技術の習得が可能である。後期研修医は、救急科専従スタッフと共に、全診療科のバックアップ体制の下で、救急集中治療全般の知識・手技と共に個々のサブスペシャリティ技能を習得する。当院附属の救命救急センターは、専従医師で全国266の救命救急センター中2番目に多い35名を擁しており、救命救急センターの評価結果でも常に上位に位置している。

【麻酔科】

○国民の健康と福祉の増進に寄与すべく、安全で質の高い周術期医療及び麻酔関連分野である集中治療、緩和医療、ペインクリニック、救急の分野で診療できる研修をプログラム化している。プログラムは日本麻酔科学会の教育ガイドラインに基づいて作成し、専門知識の習得と手技を取得できるように専門医の指導のもと研修を行っている。

【病理診断科】

○病理診断科では、病理学総論的・各論的知識、最新の分子病理学的手法、病理診断に必要な臨床的知識を学ぶことにより、実践的で論理的な病理診断法の習得に主眼を置き、若い先生方が病理医としてより早く自立できるような魅力的な病理専門医及び細胞診専門医の研修プログラムを組んでいます。具体的には、専門医と1対1の指導の元、組織診、細胞診、病理解剖における病理診断のための観察法の基礎や基本的診断法及び診断に重要な染色法や分子病理学的手法で学びます。病理診断学の中の専門性についても、当初は偏った臓器ではなく、全身の幅広い分野の病

理診断を経験していただき、その中から各専攻医の先生が興味を持たれた分野を専門にされるよう指導を行っています。また、同時に大学院博士課程に進むなど専攻医の希望にも柔軟に対応できる複数のプログラムを用意しています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	77.8人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松岡孝昭	糖尿病・内分泌・代謝内科	教授	31年	
北野雅之	消化器内科	教授	31年	
井口幹崇	消化器内科	准教授	28年	
前北隆雄	消化器内科	准教授	26年	
蘆田玲子	消化器内科	講師	23年	
井田良幸	消化器内科	講師	18年	
中西正典	呼吸器内科・腫瘍内科	准教授	28年	
小澤雄一	呼吸器内科・腫瘍内科	講師	22年	感染症内科も担当
赤松弘朗	呼吸器内科・腫瘍内科	准教授	18年	
田中 篤	循環器内科	教授	31年	
大矢昌樹	腎臓内科	准教授	24年	
園木孝志	血液内科	教授	32年	
伊東秀文	脳神経内科	教授	36年	
藤井隆夫	リウマチ・膠原病科	教授	32年	
神波信次	小児科	講師	31年	
熊谷 健	小児科	講師	26年	
田村 彰	小児科	講師	24年	
島 友子	小児科	講師	22年	
末永智浩	小児科	講師	20年	
津田祐子	小児科	講師	18年	
辻 富基美	神経精神科	准教授	26年	
西村好晴	心臓血管外科	教授	34年	
平井慶充	呼吸器外科	講師	16年	
宮坂美和子	乳腺外科	助教	15年	
山上裕機	消化器・内分泌・小児外科	教授	38年	
川井 学	消化器・内分泌・小児外科	准教授	26年	
松田健司	消化器・内分泌・小児外科	准教授	25年	
中尾直之	脳神経外科	教授	35年	
西林宏起	脳神経外科	准教授	27年	
深井順也	脳神経外科	准教授	24年	
北山真理	脳神経外科	講師	22年	
八子理恵	脳神経外科	講師	20年	
石井政道	脳神経外科	助教	14年	
中井康雄	脳神経外科	助教	13年	
中西陽子	脳神経外科	助教	13年	
矢本利一	脳神経外科	助教	12年	

佐々木貴浩	脳神経外科	助教	11年	
辻 栄作	脳神経外科	助教	11年	
山田 宏	整形外科	教授	32年	
朝村真一	形成外科	教授	25年	
原 勲	泌尿器科	教授	36年	
井篁一彦	産科・婦人科	教授	34年	
雑賀司珠也	眼科	教授	32年	
保富宗城	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	20年	
神人正寿	皮膚科	教授	22年	アレルギー科も担当
山本有紀	皮膚科	准教授	31年	
上中智香子	皮膚科	准教授（寄附講座）	22年	
国本佳代	皮膚科	講師	17年	
稲葉 豊	皮膚科	講師	12年	
松村達志	歯科口腔外科	教授	28年	
鈴木 滋	歯科口腔外科	講師	17年	
園村哲郎	放射線科	教授	35年	
幸田 剣	リハビリテーション科	講師	21年	
加藤正哉	救急・集中治療部	教授	39年	
川股知之	麻酔科	教授	30年	
村田晋一	病理診断科	教授	34年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【看護部】

- ・研修の主な内容 看護実践力を高める、マネジメント力を養う、人材育成力を養う
- ・研修の期間・実施回数 2020年4月～2021年3月、42回
- ・研修の参加人数 2,529名

【中央検査部】

- ・研修の主な内容
「感染予防対策研修（新型コロナウイルスについて・COVID-19感染症例の経験と特徴）」、「
「心理的安全性と現場に心理的安全性がないとき」、「医療行為前の同意と説明義務」、「DVT
超音波検査の効率化&時短術！－proximal CUSとwhole leg USの使い分け－」、「腫瘍循環器
アップデートーCAT（がん関連血栓）and beyond－」、「下肢動脈の検査と治療」、「新型コロ
ナウイルス感染症の悩みを解決する」、「タスクシフティング業務啓発事業研修」
- ・研修の期間・実施回数：2020年4月～2021年3月・8回（※コロナ対策の為、集合研修ではなくWeb研修）
- ・研修の参加人数：延べ292名（36.5人/回）

【中央放射線部】

- ・研修の主な内容
令和2年度医療放射線研修（法令に基づく内容）
- ・研修の期間・実施回数 令和2年12月～令和3年3月 1回
- ・研修の参加人数 336名（医師以外）

- ・研修の主な内容
障害防止法に基づく教育訓練（DVD講習）（法令に基づく内容）
- ・研修の期間・実施回数 令和2年6月～令和2年7月 1回
- ・研修の参加人数 60名（医師以外）

- ・研修の主な内容
放射性同位元素の防護に関する教育訓練（DVD講習）（法令に基づく内容）
- ・研修の期間・実施回数 令和2年8月24日（月）～令和2年8月28日（金） 1回
- ・研修の参加人数 57名（医師以外）

【リハビリテーション部】

- ・研修の主な内容：令和2年度第1回大学院研究検討会
リハビリテーション医学講座での研究内容について報告会（web（Zoom））

樋上PT、沖田OT、島PT、辻PT

- 研修の期間・実施回数：令和2年5月8日 1回
- 研修の参加人数：約30名
大学院在籍の有無に限定せず、リハビリテーション科医師、療法士および同門会員
- 研修の主な内容：田島教授提案 和歌山県理学療法士協会主催でweb研修会
(テーマ) COVID-19アウトブレイクにおけるリハビリテーション実施時の考慮事項
COVID-19についての概要(45～60分)
講師：吉川達也 (リハビリテーション科)
COVID-19感染者に対するリハビリテーション治療の意義(45分～60分)
講師：三上幸夫 (リハビリテーション科)
実技：リハビリテーション治療時における防護服等の着用時の注意点
～personal protective equipment：PPEを中心に～
講師：小池有美、木下利喜生 (リハビリテーション部)
和歌山医大と紀北分院における対応 ～具体事例を踏まえて～
講師：山本義男 先生(紀北分院リハビリテーション科)
- 研修の期間・実施回数：令和2年5月16日 1回
- 研修の参加人数：約100名
和歌山県内理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、リハビリテーション科医師
- 研修の主な内容：令和2年度第2回大学院研究検討会(web(Zoom))
リハビリテーション医学講座での研究内容について報告、検討会
樋上PT、沖田OT、島PT、辻PT、材木PT、千住PT
- 研修の期間・実施回数：令和2年5月29日 1回
- 研修の参加人数：約40名 リハビリテーション科医師、療法士および同門会員
- 研修の主な内容：田島教授提案 和歌山県理学療法士協会主催でweb研修会
(テーマ) COVID-19アウトブレイクにおけるリハビリテーション実施時の考慮事項 II
新型コロナウイルス感染症について ～リハビリテーション治療介入の重要性～
講師：風呂谷容平 先生
新型コロナウイルス感染症患者に対する当院の感染対策 ～療法士の立場から～
講師：峯玉賢和 先生(紀北分院リハビリテーション科)
新型コロナウイルス感染症患者に対するリハビリテーション治療
～作業療法士の役割～
講師：鈴木浩之 先生(紀北分院リハビリテーション科)
新型コロナウイルスとリハビリ 言語聴覚士の立場から
講師：大高明夫 先生(紀北分院リハビリテーション科)
- 研修の期間・実施回数：令和2年9月27日 1回
- 研修の参加人数：約100名
和歌山県内の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、リハビリテーション科医師
- 研修の主な内容：和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座「夏の勉強会」(web(Zoom))
American College of Sports Medicineによる運動療法に関するガイドライン”ACSM’s Guidelines for Exercise Testing and Prescription 10th ed.

”を輪読

- ・研修の期間・実施回数：令和2年7月18日 1回
- ・研修の参加人数：約40名 リハビリテーション科医師、療法士および同門会員、大学院生

- ・研修の主な内容：令和2年度第3回大学院研究検討会（対面とweb（Zoom）による hybrid）
リハビリテーション医学講座での研究内容について報告、検討会
樋上PT、沖田OT、島PT、辻PT、材木PT、千住PT

- ・研修の期間・実施回数：令和2年10月23日 1回

- ・研修の参加人数：約40名

大学院在籍の有無は問わず、リハビリテーション科医師、療法士および同門会員

- ・研修の主な内容：令和2年度がんのリハビリテーション研修会 in 和歌山（web（Zoom））
がんリハビリテーションについての概要、疾患ごとの周術期リハビリテーション、摂食嚥下障害、造血器腫瘍・造血幹細胞移植、がん悪液質について、看護師の役割、グループワーク、模擬カンファレンスなど

- ・研修の期間・実施回数：令和3年1月30日（土）・31日（日） 1回

- ・研修の参加人数：92名（18施設）

【病態栄養治療部】

- ・研修の主な内容：NST 勉強会

栄養管理の重要性を認識し、適切な栄養処分を行うための専門知識と技術の習得を目的とする。

- ・研修の期間・実施回数：2020年4月～2021年3月まで 計 5回

- ・研修の参加人数：313名

※通年対面での講演会を実施しているが、コロナ禍における感染対策のため、2020年度はEラーニング（オンデマンド配信）にて実施

【臨床工学センター】

- ・研修の主な内容 人工呼吸器、医用ポンプ、除細動、補助循環装置

- ・研修の期間・実施回数

異動時・新規採用時81回、新規備品購入時18回、定期研修46回

- ・研修の参加人数 異動・新規採用236名、新規購入機器説明243名 定期研修名531名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

【看護部】

- ・研修の主な内容 看護の補助業務を遂行するための研修

- ・研修の期間・実施回数 2020年9月～2021年1月、4回

- ・研修の参加人数 178名

【中央検査部】

- ・研修の主な内容

「令和2年度医療機関における個人情報保護対策」

ISO15189必須トレーニング「化学物質」、「避難訓練・災害対策」、「感染予防：標準予防策2」、「感染予防：標準予防策1」、「患者情報の保護・臨床倫理」、「廃棄物管理」

- ・研修の期間・実施回数：2020年4月～2021年3月・6回（※コロナ対策の為、集合研修ではなくWeb研修）
- ・研修の参加人数：延べ421名（70.2人/回）

【薬剤部】

- ・研修の主な内容：採用医薬品について
- ・研修の期間・実施回数：R2.4～R3.3 7回
- ・研修の参加人数：延べ167名

【中央放射線部】

- ・研修の主な内容 コロナウイルス対応策
コロナウイルス対応策に向けての感染予防策の冊子を各自閲覧し各自の知識の向上に努める
- ・研修の期間・実施回数 令和2年4月23日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 27名

- ・研修の主な内容 MRI用造影剤注入装置（WEB講習）
MRI用造影剤注入装置は、RIS連携もとれており情報管理機能に優れている。
- ・研修の期間・実施回数 令和2年5月11日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 2名

- ・研修の主な内容 乳房撮影施設認定申請
シーメンス株式会社マンモグラフィ担当より申請時の注意点や必要書類についてのレク
- ・研修の期間・実施回数 令和2年6月1日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 4名

- ・研修の主な内容 外傷ショックシミュレーション
救急外来において救急部医師、看護師、技師の三師合同で事例共有
- ・研修の期間・実施回数 令和2年7月7日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 3名

- ・研修の主な内容 造影剤によるアナフィラキシーショック時の対応について
今後の急変時対応に活かせる有用な勉強会
- ・研修の期間・実施回数 令和2年8月20日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 8名

- ・研修の主な内容 カセットホルダーの使用説明

新規カセットホルダー使用方法や操作方法の説明

・研修の期間・実施回数 令和2年9月15日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師 5名

・研修の主な内容 低官電圧CTにおける撮影のこつ
インターネットライブ

・研修の期間・実施回数 令和2年10月15日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師 17名

・研修の主な内容 和歌山救急画像セミナー

症例報告や特別講演、頸椎頸髄損傷の画像診断と治療について

・研修の期間・実施回数 令和2年11月13日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師 14名

・研修の主な内容 和歌山救急画像セミナー

症例報告や特別講演、頸椎頸髄損傷の画像診断と治療について

・研修の期間・実施回数 令和2年11月13日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師 14名

・研修の主な内容 動的 肩関節撮影法

動的 両肩関節撮影法についての自然下垂、最大挙上時の撮影法

・研修の期間・実施回数 令和2年12月17日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師 8名

・研修の主な内容 造影CTセミナー

CTの安全管理、スペクトラルCTなど

・研修の期間・実施回数 令和3年1月9日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師 15名

・研修の主な内容 コロナウイルス対応策

救急外来等におけるコロナウイルス対応策

・研修の期間・実施回数 令和3年2月3日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師 30名

・研修の主な内容 造影CTセミナー

腹部MDCTの至適造影法：基礎から最新の話まで

・研修の期間・実施回数 令和3年3月3日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師 12名

- ・研修の主な内容 造影CTセミナー
腹部MDCTの至適造影法：基礎から最新の話まで
- ・研修の期間・実施回数 令和3年3月3日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 12名

【リハビリテーション部】

週間業務

- ・リハビリテーション科朝回診 毎日 7時40分～8時20分 医師8名、療法士10名程度
- ・新患検討会 毎日 17時30分～18時30分 医師6名、療法士10名程度
- ・英文抄読会 毎週火曜日 8時30分～9時 医師6名、療法士全員（46名）
- ・画像カンファレンス 毎週火曜日 12時30分～13時 医師3名、療法士全員（40名）
- ・訓練室回診 毎週火曜日 16時15分～17時 医師5名、療法士全員（40名）
- ・リハビリテーション科入院患者検討会 毎週火曜日 13時30分～14時30分 医師8名、看護師1名、療法士1名（10名）
- ・症例検討会 毎週木曜日 18時30分～19時 医師6名、療法士全員（40名）

リハビリテーション科クルズス

- ・研修の主な内容：医療安全、業務システム、感染対策、医療機器管理方法、装具療法、画像の見方、急変時対応、療法室看護業務、英文抄読の方法、疾患別リハビリテーション治療 など
- ・研修の期間・実施回数：4月1日～7月17日まで 計31回実施
- ・研修の参加人数：それぞれ20-50名（医師、療法士、看護師など）

患者急変時の対応研修

- ・研修の主な内容：医療安全（急変時対応について）講義、リハビリテーション治療中の患者急変を想定した急変時対応研修(実技)、症例検討会後、個別事例への対応検討
- ・研修の期間・実施回数：令和2年4月6日、5月21日、令和3年3月4日 年に3回
- ・研修の参加人数：20-45名程度 医師、療法士、看護師など多職種で実施

【病態栄養治療部】

- ・例年、研修医セミナーにて栄養管理に関するセミナーを実施しているが、コロナ禍の影響により、中止となっている。

【臨床工学センター】

- ・研修の主な内容 臨床工学センター管理の医療機器の取扱説明
- ・研修の期間・実施回数 定期研修10回、新規購入器適宜2回、新規採用時1回
- ・研修の参加人数 定期研修90名、新規購入器適宜34名、新規採用時3名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 中尾 直之
管理担当者氏名	事務局長 島 秀之

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	経理課 医事課 医療情報部 薬剤部	平成22年5月より、電子カルテが稼動しており、電子媒体に保存されている。診療録の持ち出しについては診療記録管理要綱で禁止されている。	
		各科診療日誌			
		処方せん			
		手術記録			
		看護記録			
		検査所見記録			
		エックス線写真			
		紹介状			
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	経理課 総務課	書類形式で、ファイルに綴じて管理	
		高度の医療の提供の実績	経理課 医事課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	経理課		
		高度の医療の研修の実績	経理課		
		閲覧実績	経理課		
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経理課 薬剤部	書類形式で、ファイルに綴じて管理
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進部		
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進部		
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	に掲げる事項	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター サイボウズ	

書類形式で、ファイルに綴じて管理

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	経理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	経理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	危機対策室
		職員研修の実施状況	医療安全推進部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	経理課
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	危機対策室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 中尾 直之		
閲覧担当者氏名	医療安全推進部長 水本 一弘 医事課長 井関 謙志 経理課長 中阪 康仁		
閲覧の求めに応じる場所	医事課、経理課		
閲覧の手続の概要	閲覧の求めに応じて開示（一部はホームページなどに掲載）		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医 師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>和歌山県立医科大学附属病院は、安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献することを理念としており、ハイリスクな先端医療や臨床研究及び最新の看護技術などを、いかに安全に患者に提供するかが求められている。しかし、医療は潜在的に不確実な要素とリスクを多分に含んでおり、医療行為を行う以上、有害事象の発生は不可避であることも事実である。</p> <p>したがって、当院では、有害事象の発生頻度を減少させる努力を行うと同時に、まずはこれらのリスクに向かい合い、有害事象が発生した場合の医学的な対応力を向上させる努力を行う。医療事故発生時には当院の技術を集結して治療に当たり、部門横断的に状況の改善に最善を尽くす。患者には遅滞なく事実を伝え、責任を持って治療・原因究明・再発防止に取り組むことを説明する。</p> <p>当院では、病院全体でこれらの課題に取り組み、第三者による客観的評価を受けながら、医療事故の温床となるような危険な医療行為や医療環境を抽出し、予防のための方策や教育・指導を継続していく。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>平成12年12月1日から「医療安全推進の新制度」をスタートさせて以降、医療安全推進委員会を月1回開催している。</p> <p>ア 医療安全管理のための基本指針の策定に関すること。</p> <p>イ 重大な問題その他安全推進委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。</p> <p>ウ 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること。</p> <p>エ 前号の改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた方策の見直しに関すること。</p> <p>オ 入院患者が死亡した場合及び入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生した場合における医療安全推進部への報告の実施状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。</p> <p>カ 前号に規定する実施状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導に関すること。</p> <p>キ 医療安全推進のための職員研修等に関すること。</p> <p>ク 職員総参加の医療安全推進に関すること。</p> <p>ケ その他、医療の安全確保と医療の質の向上に関すること。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3回

- ・ 研修の内容（すべて）：

令和2年度開催実績

No	開催期間	テーマ	受講人数
1	R2. 6. 1～R3. 2. 26	医療安全と関連法「医療行為前の同意と説明義務」	1,948
2	R2. 6. 1～R3. 2. 26	心理的安全性「心理的安全性と現場に心理的安全性がないとき」	1,948
3	R3. 3. 18	児童虐待の現状と対策 - 院内SCAN (Safety for Child Abuse & Neglect) チーム の活動報告	83

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

医療安全推進規程等に基づいて、院内報告制度を定め、積極的な報告の推進に努めている。レポートの迅速かつ適切な分析等に努めるとともに、医療安全推進部内で、週1回定例事例検討会を行い、医療安全推進委員会、リスクマネージャー会議を通じて、事例の共有と改善策の周知徹底を行っている。

特に、アクシデント事例は、医療安全推進委員会で分析と安全管理に係る改善策等について検討協議を行うとともに、重大事故調査委員会での審議を必要とするものについては、随時、同委員会で審議している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 令和2年8月24日から令和3年2月26日の間、E-ラーニングシステムで実施 医薬品安全管理研修（1）「錠剤の飲みこぼし」/「KCLの誤投与」 医薬品安全管理研修（2）「抗がん剤の血管外漏出」 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 業務手順チェックリストにより確認し、改善が必要と思われる業務においては、当該部署と検討し、改善している。
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> 適否決定部門、臨床倫理委員会で承認を得た薬剤は薬剤部内で回覧し情報共有を行っている。上限量を超えて処方された入院患者リストのファイルをDI室で作成し病棟薬剤師に対して情報提供を行っている。その他の適応外使用薬は、各病棟薬剤師から情報を収集し、薬剤部共有フォルダ内にてデータ入力し情報共有を行っている。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品・医療機器等安全性情報については、製薬企業MRからの情報提供のほかPMDAナビなどインターネットを利用した情報収集を積極的に行い、入手した情報については、DIニュース等を定期的に発行し周知を図っている。 2. 定期的な情報以外に緊急を要するものについては随時情報提供を行う。 3. 情報提供は文書配布及び電子カルテシステムのポータルサイトへの掲載を行っている。 4. 緊急かつ重要な情報は院内メールを活用し、医師をはじめとする医療スタッフに周知徹底を図る。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年380回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ●異動時・新規採用時：299回（参加者900名） 新規採用または異動者に対して所属に整備している医療機器の研修を実施 ●新規備品購入時：27回（参加者312名） 備品整備委員会にて承認された機器を整備する際、基本操作及びトラブル対応の研修を実施 ●定期研修：54回（参加者593名） 実際の部署において実機を用いた操作方法及びトラブルシューティングを研修し、基本的原理などはE-ラーニングを活用して研修を実施（CRRT、PGPS、保育器、人工呼吸器、除細動器、ベッドサイドモニタ、医用ポンプ） ※E-ラーニング（人工呼吸器、除細動器） 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （有・無） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>メーカー定期点検：人工呼吸器、麻酔器、循環補助装置、血液浄化装置、内視鏡装置、放射線検査装置関連</p> <p>臨床工学センター定期点検：患者漏れ電流等電気的安全点検、操作点検 除細動装置、医用ポンプ、（人工呼吸器、麻酔器、循環補助装置、血液浄化装置、内視鏡装置） （）内機器はメーカースポット点検実施とともに実施</p> 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器インシデントやアクシデント等発生した際、サイボウズにて図解にて臨床工学センターより報告閲覧が可能 メーカーからの報告書を医療機器管理システムに保管し、電子カルテ端末より閲覧が可能 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（<u>医師</u>・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全推進委員長を担っている副院長が医療安全管理責任者となり、統括する。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品に関する情報は、医薬品情報係担当者に整理、周知及び周知の確認を行わせている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品の使用状況や使用に係る情報については、医薬品情報係担当者に電子カルテや病棟薬剤師より収集させ、必要に応じて報告させている。</p> <p>・担当者の指名の有無（<u>有</u>・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ <u>有</u>・無 ）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>遵守状況の確認：部門リスクマネージャー及び診療情報管理士による診療録監査において、IC説明時にテンプレートを用いているか、またテンプレートに沿った記載がされているかなどについて確認を行っており、不適切な事例があった場合は診療録等の管理に関する責任者（説明に関する責任者）から周知・指導を行っている。</p> <p>主な指導内容：規程（インフォームドコンセントに関するガイドライン等）の周知を行うとともに、所定の書式の使用徹底及びテンプレートに沿った記載について指導している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
-----------------------	-----

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

記載内容の確認：院内診療録記載マニュアルその他法令等に準じて、診療情報管理委員会が作成した点検シートを用いて、入院患者のカルテ(無作為抽出)を突合・目視で確認している。多職種で構成されるRM(リスクマネージャー)及び院内の診療情報管理士が一次点検を行い、診療情報管理士が二次点検及び取りまとめを実施する。診療情報管理委員会及び診療録等の管理に関する責任者(説明に関する責任者)に報告後、科長会にて報告を行い、各点検項目の講評について診療録等の管理に関する責任者(説明に関する責任者)から全診療科へ周知している。

主な指導内容：点検項目となっている深部静脈血栓症評価における記載漏れについて、診療録等の管理に関する責任者から対象となる医師の所属する科に指導を行っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
-----------------	-----

・所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（4）名
 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（ ）名
 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名
 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- ①安全推進委員会及び調査委員会に係る事務に関すること。
- ②重大事故その他の推進部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく職員への必要な指導に関すること。
- ③医療に係る安全管理に係る連絡調整に関すること。
- ④医療に係る安全の確保のための対策の推進に関すること。
- ⑤医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること。
- ⑥医療安全に関する研修その他職員の意識の向上に関する指導に関すること。
- ⑦インシデントレポート及びアクシデントレポートの受理及び分析評価に関すること。
- ⑧その他医療の安全推進に必要な業務に関すること。

診療内容のモニタリングについて

① 肺血栓予防策の実施率	リスクマネージャーの診療録監査（年2回）時に肺血栓塞栓症のリスク評価の実施率を調査
② 適切なインフォームド・コンセントの実施	リスクマネージャーの診療録監査（年2回）時に「IC 記事入力」の使用率及び医師以外の職種の同席率を調査

③ 入院患者の転倒・転落発生率	インシデント・アクシデントレポートから毎月調査 DiNQL（労働と看護の質向上のためのデータベース）でも調査
④ 中央手術部カカスレポート 有害事象発生率	中央手術部と連携し、術中緊急コール事例、予定外にICU管理が必要になった事例、24時間以内に再手術が必要となった事例を調査
⑤ 術前中止薬中止忘れ	インシデント・アクシデントレポートから毎月調査
⑥ 手術関連死亡	全死亡報告で予定手術施行後死亡退院になった事例を調査
⑦ 血管外漏出発生件数・血管穿刺時の神経障害発生件数	インシデント・アクシデントレポートから毎月調査
⑧ アナフィラキシーショック発生率	インシデント・アクシデントレポートから毎月調査
⑨ 院内急変件数	緊急コール報告書（ドクターホワイトコール・METコール報告）で毎月調査
⑩ 「放射線レポート見落とし対策」 目的外臓器異常所見連絡件数	放射線画像診断医からの連絡件数を調査

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 評価委員会（臨床倫理委員長）へ意見照会を行う。
 - ・ 評価委員会からの意見に基づき、申請に対する最終の適否を決定し、申請診療科へ通知を行う。
 - ・ 承認後の実施状況の確認を行う。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（14件）、及び許可件数（14件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有

無 (有 ・ 無)

・活動の主な内容：

- ・評価小委員会へ意見照会を行う（臨床倫理委員会委員長が意見照会を受けて、開催毎に未承認医薬品等評価小委員会の委員長（議長）を選任する）。
- ・評価小委員会からの意見に基づき、申請に対する最終の適否を決定し、申請診療科へ通知を行う。
- ・承認後の実施状況の確認を行う。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 385 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 45 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

入院患者が死亡した場合及び入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生した場合における医療安全推進部への報告の実施状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。

前号に規定する実施状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：京都大学医学部附属病院) ・ 無)

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：神戸大学医学部附属病院) ・ 無)

・技術的助言の実施状況

実施済みの教育コンテンツ常時開放。医療法で求められる研修とは別に、職員教育として活用いただきたい。

医薬品安全管理委員会（仮称）などの組織を設置いただき、日常の医薬品の安全管理体制を充実していただきたい。

適否判断部門に配置されている医療者が比較的小さい。また、実施報告書の内容については医療者の確認が望ましいため、適否判断部門への増員を検討いただきたい。

高難度新規医療技術を用いた医療提供によって、死亡等の重大な事故が生じた際の、事故内容の検証プロセスや同医療技術の停止等のプロセスを明文化されたい。

医療安全推進部の業務内容が、多岐にわたっており、業務過多。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口において、安全管理に係る相談のほか、医事相談や苦情、要望、臨床研究、治験など、患者及びその家族からの様々な相談等をワンストップで受け付け、医事課及び関係部署と連携して対

応する体制となっている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

令和2年度開催実績

No	開催期間	テーマ	受講人数
1	R2. 6. 1～R3. 2. 26	医療安全と関連法「医療行為前の同意と説明義務」	1,948
2	R2. 6. 1～R3. 2. 26	心理的安全性「心理的安全性と現場に心理的安全性がないとき」	1,948
3	R3. 3. 18	児童虐待の現状と対策 - 院内 SCAN (Safety for Child Abuse & Neglect) チーム の活動報告	83

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

日本医療機能評価機構 特定機能病院管理者研修

管理者：令和3年1月受講

医療安全管理責任者：令和2年12月受講

医薬品安全管理責任者：令和2年11月受講

医療機器安全管理責任者：令和3年2月受講

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構 2018年11月

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページにおいて公表 (令和3年9月9日公表)

URL : <https://www.wakayama-med.ac.jp/hospital/info/kinohyoka.html>

・評価を踏まえ講じた措置

【患者が理解できるような説明を行い、同意を得ている】

インフォームド・コンセントに関するガイドライン運用基準を策定し、院内への周知を図り、適正運用に努める。

【患者の個人情報・プライバシーを適切に保護している】

診療情報管理委員会において対応策を検討し、情報漏洩対策ソフトを採用して電子カルテシステムからのデータ抽出方法等の見直しを行い、新たな運用方法の定着を図る。

【臨床における倫理的課題について継続的に取り組んでいる】

医療チームだけでは解決できない倫理的問題等に対応するため、医療安全推進部に臨床倫理コンサルテーションチームを設置し、日常的な倫理的課題に対応する。また、臨床倫理委員会と連携し、問題の解決にあたる体制を整える。

【職員への教育・研修を適切に行っている】

研修委員会を設置し、研修内容の検討を行う体制を整備するとともに、病院として集約した職員研修計画を策定し、当該計画に基づいて研修を実施する。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p>
<p>・ 基準の主な内容</p> <p>下記のとおり基準を策定し、ホームページで公表している。</p> <p>病院長には、人格が高潔で、学識に優れ、次に掲げる資質及び能力が求められる。</p> <p>①医療安全の確保のために必要な資質及び能力 医療安全管理業務の経験、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること</p> <p>②組織管理能力等の病院を管理運営する上で必要な資質及び能力 当院又は当院以外での病院の組織管理経験など、特定機能病院の管理運営上必要な資質能力を有していること。</p> <p>③当院の理念及び基本方針の実現を目指し、リーダーシップを発揮し病院運営を行う能力を有していること。</p> <p>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ☒ 無 ）</p> <p>・ 公表の方法</p>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	☒ 有 ・ 無			
<p>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 公表の方法 ホームページ</p>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
稲葉 信	副理事長	☐	附属病院長候補者の選考委員会 規程第3条第1項第1号に基づく 役職指定	☒ 有 ・ 無
村垣 泰光	理事（医学部長）		附属病院長候補者の選考委員会 規程第3条第1項第2号に基づく 役職指定	☒ 有 ・ 無
島 秀之	理事（事務局長）		附属病院長候補者の選考委員会 規程第3条第1項第3号に基づく 役職指定	☒ 有 ・ 無

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
柳川 敏彦	保健看護学部長		附属病院長候補者の選考委員会 規程第3条第1項第4号に基づく 役職指定	○有・無
角谷 知恵美	看護部長		附属病院長候補者の選考委員会 規程第3条第1項第5号に基づく 役職指定	○有・無
水本 一弘	医療安全推進部 長		附属病院長候補者の選考委員会 規程第3条第1項第6号に基づき 教育研究審議会から指名された 教職員	○有・無
鈴木 啓之	小児医療センタ ー長		附属病院長候補者の選考委員会 規程第3条第1項第7号に基づき 教育研究審議会から指名された 教職員	○有・無
上野 雅巳	地域・国際貢献推 進本部長		附属病院長候補者の選考委員会 規程第3条第1項第7号に基づき 教育研究審議会から指名された 教職員	○有・無
森岡 郁晴	図書館長		附属病院長候補者の選考委員会 規程第3条第1項第7号に基づき 教育研究審議会から指名された 教職員	○有・無
池部 博	中央放射線部技 師長		附属病院長候補者の選考委員会 規程第3条第1項第7号に基づき 教育研究審議会から指名された 教職員	○有・無
野尻 孝子	和歌山県福祉保 健部技監		附属病院長候補者の選考委員会 規程第3条第1項第8号に基づき 理事長が任命する学外有識者	有・○無
田中 繁夫	弁護士		附属病院長候補者の選考委員会 規程第3条第1項第8号に基づき 理事長が任命する学外有識者	有・○無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	○有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> ・病院の運営に関する事項 ・診療に関する事項 ・その他必要な事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 審議決定した事項のうち、特に必要な事項については、各所属長及び各診療科の病棟医長にメール配信するとともに、教育研究審議会、医学部教授会又は保健看護学部教授会にも報告している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有 ☒ 無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有 ☒ 無） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
中尾 直之	○	医師	附属病院長
加藤 正哉		医師	附属病院副院長
川股 知之		医師	附属病院副院長
山本 信之		医師	附属病院副院長
廣西 昌也		医師	附属病院副院長
柳瀬 安芸		看護師	附属病院副院長
松岡 孝昭		医師	診療科長
北野 雅之		医師	診療科長
田中 篤		医師	診療科長
荒木 信一		医師	診療科長
園木 孝志		医師	診療科長
伊東 秀文		医師	診療科長
藤井 隆夫		医師	診療科長
西村 好晴		医師	診療科長
山上 裕機		医師	診療科長
山田 宏		医師	診療科長
朝村 真一		医師	診療科長
原 勲		医師	診療科長
井籠 一彦		医師	診療科長

雑賀 司珠也		医師	診療科長
保富 宗城		医師	診療科長
神人 正寿		医師	診療科長
松村 達志		歯科医師	診療科長
園村 哲郎		医師	診療科長
田島 文博		医師	診療科長
村田 晋一		医師	診療科長
松原 和夫		薬剤師	薬剤部長
古田 眞智		医師	中央検査部長
原 嘉秀		臨床検査技師	中央検査部技師長
池部 博		診療放射線技師	中央放射線部技師長
小池 有美		理学療法士	リハビリテーション部療法士長
西 理宏		医師	病態栄養治療部長
望月 龍馬		管理栄養士	病態栄養治療部栄養士長
水本 一弘		医師	医療安全推進部長
西尾 眞智子			感染制御部長
西川 彰則		医師	医療情報部長
中村 一貴		臨床工学技士	臨床工学センター工学技士長
南 佐和子		医師	遺伝診療部長
村田 顕也		医師	教育研究開発センター長
上野 雅巳		医師	地域医療支援センター長
島 秀之		事務職	事務局長
崎山 秀樹		事務職	事務局次長（病院）
島 泰弘		事務職	危機対策室長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有 無 ）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容：公立大学法人和歌山県立医科大学組織規程
附属病院長の職務として下記の事項を規定（第7条）
 - ・ 病院長は上司の命を受け、当該病院に属する院務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 規程の主な内容：公立大学法人和歌山県立医科大学理事職務分担規則
附属病院長の職務分担として下記の事項を規定（第1条）
 - ・ 附属病院の将来計画に関する事
 - ・ 附属病院の予算編成・執行に関する事
 - ・ 附属病院施設及び医療備品の整備に関する事
 - ・ 附属病院の経営に関する事
 - ・ 医療安全に関する事
 - ・ 地域医療との連携及び支援に関する事
 - ・ 医療に係る情報公開・広報に関する事
 - ・ その他医療活動全般に関する事
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副院長が、上司の命を受け、病院長を補佐し、病院長に事故があるときは、当該職務を代理している。院内担当、渉外担当及び紀北分院担当の副院長を置くとともに、看護部長も副院長を兼任している。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
副院長及び院内の各部門の長等については、管理者である病院長が指名している。
病院のマネジメントに特化した研修は実施していないが、病院長と副院長等による会議を週に1回程度開催し、病院のマネジメントについて協議を行っており、その協議結果に基づき、各部門において病院運営を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2回</p> <p>・ 活動の主な内容：平成29年度第1回医療安全監査委員会 平成29年6月1日開催 平成29年度第2回医療安全監査委員会 平成30年2月13日開催 平成30年度第1回医療安全監査委員会 平成30年8月9日開催 平成30年度第2回医療安全監査委員会 平成31年2月8日開催 令和元年度第1回医療安全監査委員会 令和元年8月9日開催 令和元年度第2回医療安全監査委員会 令和2年2月25日開催 令和2年度第1回医療安全監査委員会 令和2年10月6日開催 令和2年度第2回医療安全監査委員会 令和3年1月5日開催 令和3年度第1回医療安全監査委員会 令和3年7月30日開催</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有 (無))</p> <p>・ 公表の方法：ホームページによる公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山口 悦子	大阪市立大学	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有 (無)	1
中川 利彦	パークアベニュー法律事務所		法律に関する識見を有するため	有 (無)	1
石井 浩子	NPO 法人いきいき和歌山がんサポート		医療を受ける者	有 (無)	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

監事を置き、法人の業務等について監査させている。監事は、理事等が不正な行為をし、若しくは当該行為をするおそれがあると認めるとき又は法令若しくは約款に違反する事実があると認められるときは、遅滞なくその旨を理事会に報告しなければならないこととなっている。

この報告を受け、理事等は是正又は改善すべき事項を認めた場合は、速やかに、是正・改善等の必要な措置を講じ、その結果を監事に報告しなければならないこととなっている。

また、監事は、法人の業務及び財産の状況調査において、法人の内部監査部門及び会計監査人と緊密な連携を保つとともに、内部監査部門等に対して、法人の適正な業務運営を確保するために必要な体制の整備状況及び内部監査部門等が実施した監査結果について報告を求めることができるようになっている。

・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 法人の設置する理事会において病院の業務の監督を行う体制としている。 【具体的な協議事項等】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 附属病院を含めた法人の中期計画・年度計画に関すること ・ 病院の組織の改正に関すること ・ 附属病院を含めた法人の予算・決算に関すること ・ 診療備品の整備方針及び備品の更新に関すること ・ 病院職員の採用方針に関すること ・ 附属病院の理念・基本方針に関すること など ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有・無 ）（ 年11回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ☒ 無 ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：理事会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)・ 通報件数 (年〇件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)・ 周知の方法 学内ホームページに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>ホームページ</p> <p>病院広報誌「まんだらげ」</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>カンサーボード (肝がん、甲状腺がん、肺がん、消化器がん、骨腫瘍、乳がん、 頭頸部がん) など</p>	